

# 地球温暖化に関するアンケート調査結果報告書

## （市民・事業者）

令和3（2021）年 10月

## 目 次

1. 調査の目的	1
2. 調査概要	1
3. 調査結果の概要	2
3.1 市民・事業所共通設問	2
3.2 市民独自設問	4
3.3 事業所独自設問	4
4. 市民へのアンケート集計結果	5
4.1 回答者の属性	5
4.2 地球温暖化による影響拡大への認識	6
4.3 地球温暖化対策は必要だと思うか（問6）	14
4.4 日常的に行っている地球温暖化防止の取り組み（問7）	15
4.5 国の「温室効果ガス実質的排出量ゼロ」宣言による取り組み姿勢の変化（問8）	23
4.6 電力小売全面自由化を受けての自宅の電力会社の変更について	24
4.7 太陽光発電システムの導入について	26
4.8 自動車の保有状況について	32
4.9 地球温暖化防止に関連する言葉の認知状況（問15）	39
4.10 「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための手法（問16）	40
4.11 今後、枚方市に期待する地球温暖化対策（問17）	41
5. 事業者へのアンケート集計結果	45
5.1 回答者の属性	45
5.2 地球温暖化防止の取り組みをどのように位置づけているか（問5）	47
5.3 温室効果ガス排出量の削減に向けて、削減目標や方針を定めているか（問6）	49
5.4 事業所において取り組んでいる地球温暖化防止の取り組み（問7）	51
5.5 国の「温室効果ガス実質的排出量ゼロ」宣言による取り組み姿勢の変化（問8）	53
5.6 自動車の保有状況について	54
5.7 電力小売全面自由化を受けての自宅の電力会社の変更について	59
5.8 再生可能エネルギーを利用した設備、機器の導入について	62
5.9 「ZEB」、「BEMS」、「FEMS」の導入状況（問16）	66
5.10 「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための手法（問17）	67
5.11 今後、枚方市に期待する地球温暖化対策（問18）	68

### 資料編

自由回答

アンケート調査票

## 1. 調査の目的

枚方市では2018（平成30）年度に策定した「枚方市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の計画期間が2022（令和4）年度に終了することから、新たな計画の策定に取り組んでおり、その計画策定にあたって市民や事業者の地球温暖化に対する考え方や取組状況などを把握し、参考にすることを目的に実施した。

## 2. 調査概要

市民・事業者アンケート調査概要は以下のとおり。

表1 市民・事業者アンケート調査概要

	市民アンケート	事業者アンケート	
対象	市民 3,000 人 (※市に住民登録がある 18 歳以上から無作為に抽出)	市内事業者 200 社 (※市内の事業者から無作為に抽出)	市内事業者 128 社 (※地球温暖化対策協議会に入会している企業)
調査方法	直接郵送法	直接郵送法	インターネット (一部事業者は郵送)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 属性</li> <li>・ 地球温暖化影響の拡大認識</li> <li>・ 地球温暖化対策の必要性認識</li> <li>・ 日常的地球温暖化防止の取り組み</li> <li>・ 国の宣言による取り組み姿勢変化</li> <li>・ 電力小売自由化による電力会社変更</li> <li>・ 太陽光発電システムの導入について</li> <li>・ 自動車の保有状況について</li> <li>・ 地球温暖化防止関連語の認知状況</li> <li>・ 地球温暖化対策関連情報の取得手法</li> <li>・ 市に期待する地球温暖化対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 属性</li> <li>・ 地球温暖化防止の取り組み位置づけ</li> <li>・ 温室効果ガス排出量削減目標等設定</li> <li>・ 地球温暖化防止の取り組み</li> <li>・ 国の宣言による取り組み姿勢変化</li> <li>・ 自動車の保有状況について</li> <li>・ 電力小売自由化による電力会社変更</li> <li>・ 再エネ利用設備等の導入について</li> <li>・ ZEB、BEMS、FEMS の導入状況</li> <li>・ 地球温暖化対策関連情報の取得手法</li> <li>・ 市に期待する地球温暖化対策</li> </ul>	
実施時期	令和3年8月27日(金)～9月10日(金)	令和3年8月27日(金)～9月10日(金)	
回収率	59.3% (1,780 人)	40.5% (81 事業所)	41.1% (51 事業所)

---

### 3. 調査結果の概要

---

市民・事業者アンケート調査における結果及び課題は次のとおり。

※ 調査結果の詳細は、単純集計結果（5ページ以降）を参照

#### 3.1 市民・事業所共通設問

##### (1) 地球温暖化防止の取り組みについて

地球温暖化防止の取り組みとして、家庭では「マイバックの持参」が最も多く83%、次いで「省エネ家電の選択」が67%、「LED照明への変更」が64%、「マイボトル持参」が63%であった。

任意事業所においては、「冷暖房の適正な温度設定」が最も多く74%、次いで「LED照明への変更」が59%、「クールビズやウォームビズの実践」が57%の状況であった。地球温暖化対策協議会の事業所においても、「冷暖房の適正な温度設定」が最も多く92%、次いで「クールビズやウォームビズの実践」が88%の状況であった。

##### (2) 国の宣言による取り組み姿勢変化

国により「2050年までに二酸化炭素を含む温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを目指す」と宣言されたことによる地球温暖化対策への取り組み姿勢の変化については、市民、事業者共に最も多かったのは、「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」という回答で40%前後、次いで多かったのは、市民においては「現在取り組んでおり、継続して取り組む」で36%、一方事業者においては「現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」で26%であった。「宣言を知らなかった」との回答は市民、事業者共に10%であった。

##### (3) 電力小売自由化による電力会社変更

電力小売全面自由化を受け、電力会社について「変更した」のは、市民、事業者共に、4割で、6割は「変更していない」状況であった。

電力会社を「変更した」場合において電力会社を選ぶ際に最も重視した点は、市民、事業者共に最も多かったのは「料金が安くなるか」で、市民は58%、事業者は大部分の87%であった。次いで多かったのは「ガスや携帯電話など様々なサービスとのセット割引があるか」で、市民で24%、事業者で10%となっており、その他の理由は殆ど挙げられていなかった。

##### (4) 再生可能エネルギーを利用した設備、機器の導入について

再生可能エネルギーを利用した設備（市民に対しては「太陽光発電システム」に限定）等の導入状況については、「導入している」としたのは市民で6%、事業者で11%となっており、いずれも「導入していない」方が圧倒的に多く、市民で92%、事業者で88%であった。

事業者において、導入している場合の種類としては、「太陽光発電システム」が殆どで導入している9事業所中8事業所で、「バイオマス利活用設備」が1事業所のみ状況であった。

再生可能エネルギーを利用した設備を導入していない場合の理由として最も多かったのは、市民においては「導入費用が高い」ためで56%、事業者においては「コスト面での導入効果が不明」で21%と、いずれもコスト面が挙げられていた。次いで多かったのは、市民においては「設置場所がない」で40%、事業者においては「導入に必要な情報・ノウハウがない」が16%であった。

#### (5) 自動車の保有状況について

保有している自動車で最も多かったのは、市民、事業者いずれにおいても「ガソリン車」で、市民で63%、事業者で72%となっており、次いで「ハイブリッド車」は、市民で17%、事業者で23%であった。「電気自動車」の保有については、いずれにおいても1%であった。

電動車を所有していない最大の理由としては、市民、事業者共に最も多かったのは「現在の自動車はまだ使用できる」で、市民において50%、事業者においては40%で、次いで「導入費用が高い」ためが、市民、事業者共に23%であった。

#### (6) 地球温暖化対策関連情報の取得手法

「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための方法として、「活用している」割合が最も高かったのは、市民、事業者共に「テレビやラジオ」で市民は63%、事業者は38%であった。次いで市民においては「新聞、雑誌」が49%、事業者においては「新聞」34%で、その次はいずれも「広報ひらかた」で、市民は47%、事業者は28%であった。

#### (7) 市に期待する地球温暖化対策

今後、枚方市に期待する地球温暖化対策としては、市民においては「豪雨災害などの気候変動への適応」が26%で最も多く、次いで「太陽光発電システムや省エネルギー機器の導入に係る補助金」が17%、「地球温暖化に関する情報提供」が16%、「こどもに対する環境教育」が15%であった。事業者では、市民における2位、3位が、1位、2位となっており、「補助金」が32%、次いで「情報提供」が19%で、16%は「特になし」としていた。

### 3.2 市民独自設問

#### (1) 地球温暖化影響の拡大認識

全体で大部分の95%が「拡大していると思う」としており、特に、性別では「女性」、年代では「70代」、居住地域では「中南部地域」で、「拡大していると思う」とする傾向が見られた。

「拡大していると思う」と回答された場合の理由としては、「夏の猛暑が増えたこと」94%、「集中豪雨が発生しやすく災害が増えたこと」が93%で高かった。

#### (2) 地球温暖化対策の必要性認識

地球温暖化対策は「とても必要だと思う」との回答が最も多く全体で67%、「ある程度必要だと思う」と併せて98%が「必要だと思う」としていた。

#### (3) 地球温暖化防止関連語の認知状況

地球温暖化防止の取り組みに関する言葉の認知状況として、「SDGs」、「脱炭素社会」、「パリ協定」が「内容を知っている」とされた率が3割以上あり、その順に認知度が高かったが、「内容はよく知らないが聞いたことはある」を含めると、いずれも半数以上で認知順は逆転となっていた。

### 3.3 事業所独自設問

#### (1) 地球温暖化防止の取り組み位置づけ

地球温暖化防止の取り組みについて、「重要課題と位置付け、目標を設定している」事業者は1割強で、「重要課題と考えているが具体的な取り組みは行っていない」事業者が半数強、「事業活動の立場からはそれほど重要な課題とは考えていない」事業者が3割の状況であった。

#### (2) 温室効果ガス排出量削減目標等設定

温室効果ガス排出量の削減に向けて、削減目標や方針を「定めている」事業者は10%、「現在検討中である」が15%、「今のところ取り組む予定はない」としている事業者が多数の65%の状況であった。

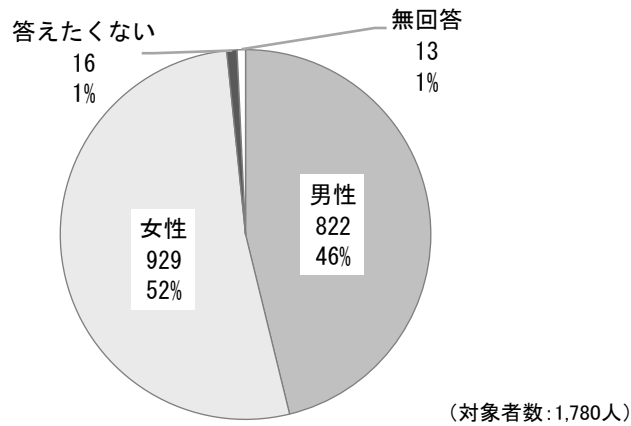
#### (3) ZEB、BEMS、FEMSの導入状況

「ZEB」や「BEMS」、「FEMS」について、「導入している」事業者はおらず、「導入していないが、導入を検討している」事業者が2事業者で、31%が「導入予定はない」とし、半数以上の61%の事業者が「どのようなものか知らない」としていた。

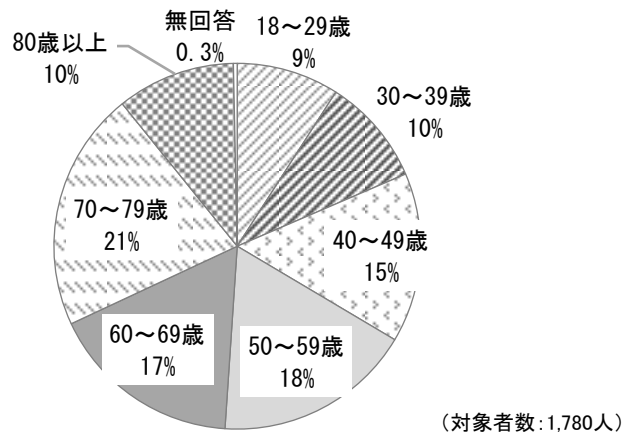
## 4. 市民へのアンケート集計結果

### 4.1 回答者の属性

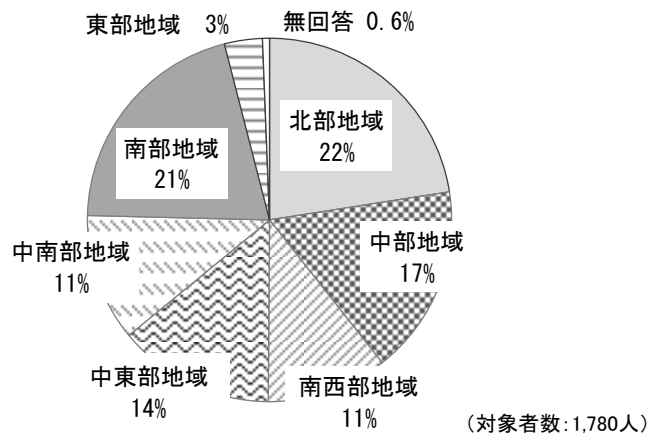
#### ■性別（問1）



#### ■年齢（問2）



#### ■居住地域（問3）



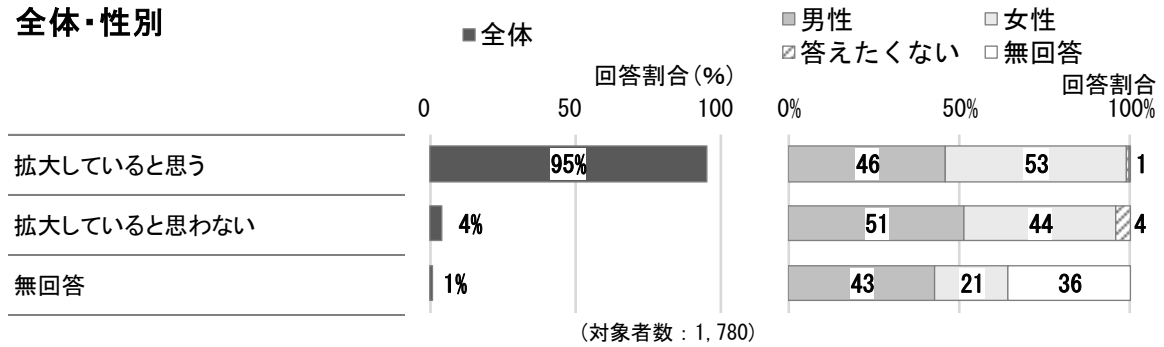
## 4.2 地球温暖化による影響拡大への認識

### (1) 地球温暖化による影響が拡大していると思うか（問4）

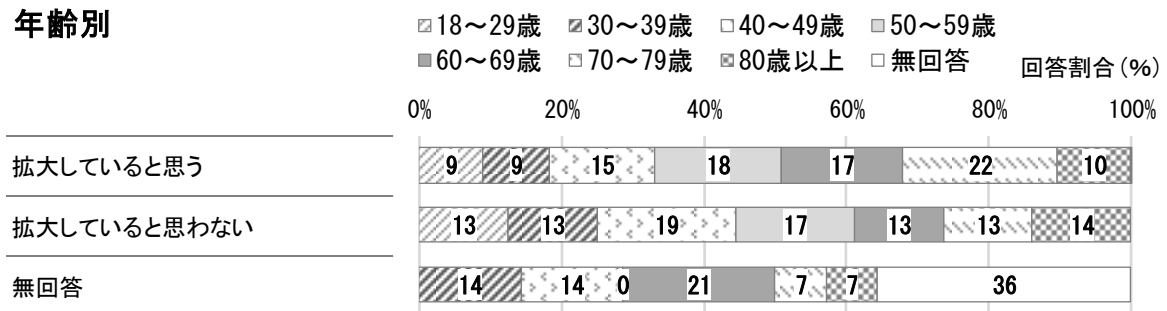
全体で大部分の95%が「拡大していると思う」としていた。前回の調査結果と大きな差はなかった。

特に、性別では「女性」、年代では「70代」、居住地域では「中南部地域」で、「拡大していると思う」とする傾向が見られた。

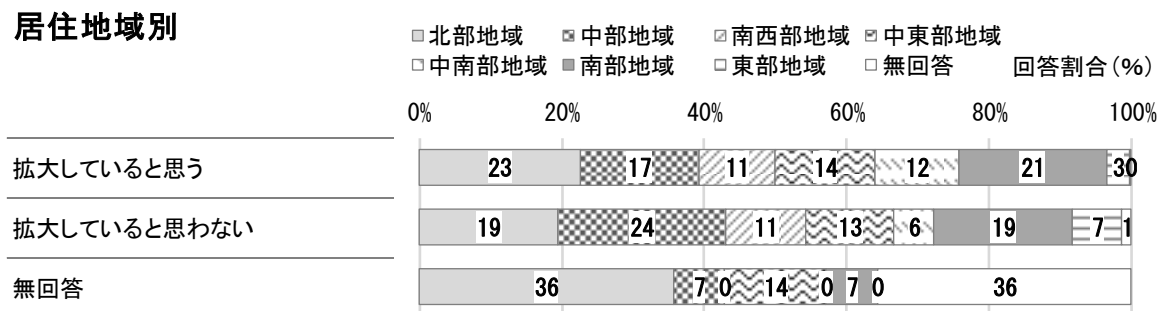
#### 全体・性別



#### 年齢別



#### 居住地域別



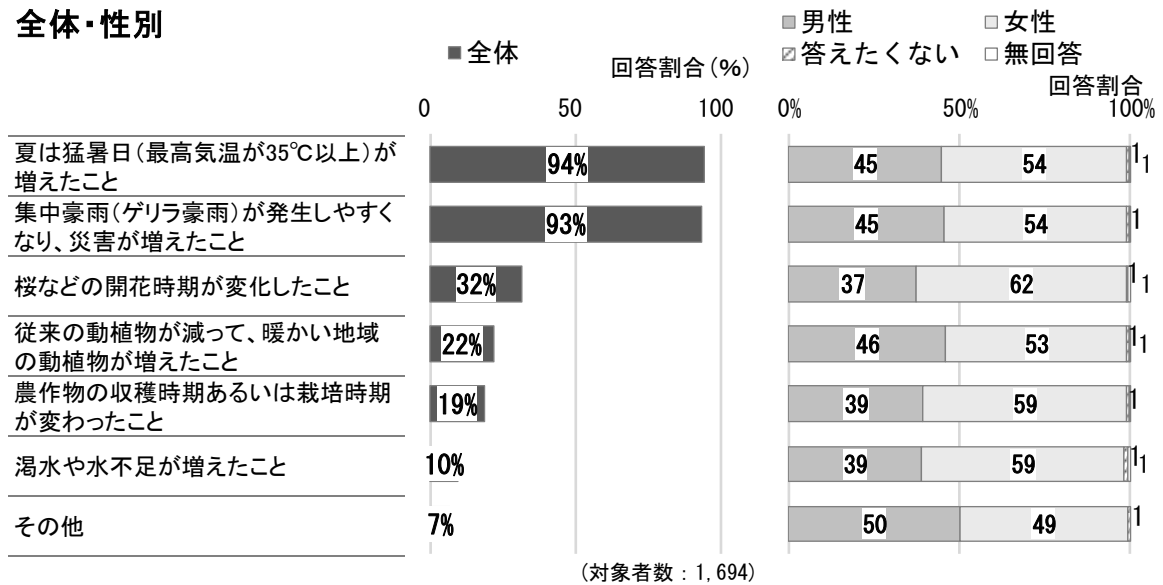


(2) 地球温暖化による影響が拡大していると思う理由（問5）

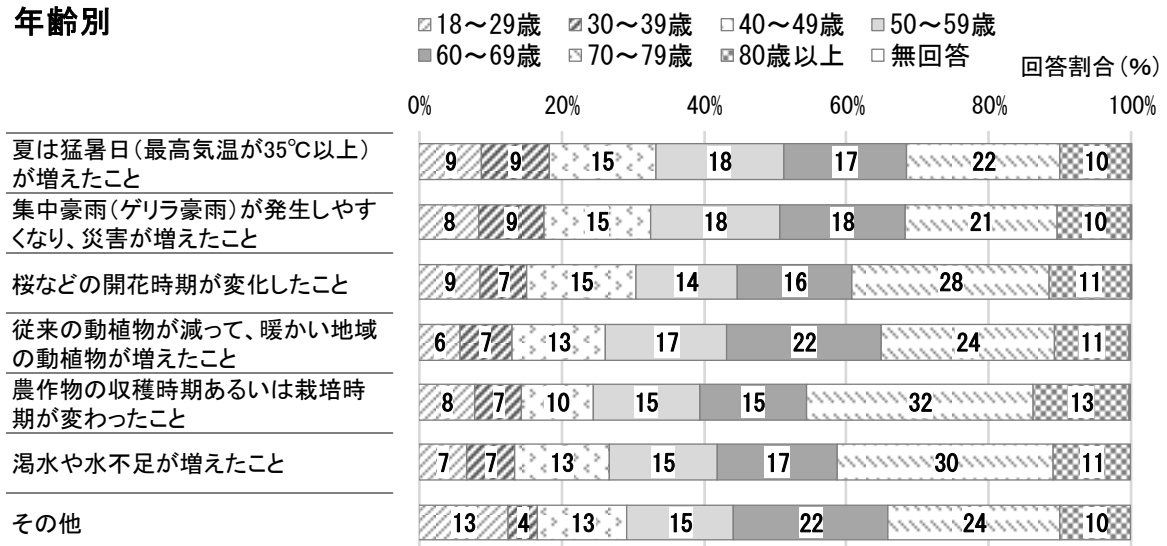
地球温暖化による影響が「拡大していると思う」と回答された場合の理由としては、「夏の猛暑が増えたこと」94%、「集中豪雨（ゲリラ豪雨）が発生しやすくなり、災害が増えたこと」が93%で高かった。

性別で見ると全体で32%の「桜などの開花時期が変化したこと」において、「女性」の方が理由として挙げる率が高かった。年齢別では「70代」において、「桜の開花時期の変化」、「農作物の収穫時期等の変化」、「渇水や水不足」などを、「60代」において「動植物の分布変化」を理由とする率が高かった。なお居住地域では、「東部地域」において「農作物の収穫時期等の変化」を挙げる傾向がみられたが、全体として地域差はあまり見られなかった。

全体・性別



年齢別





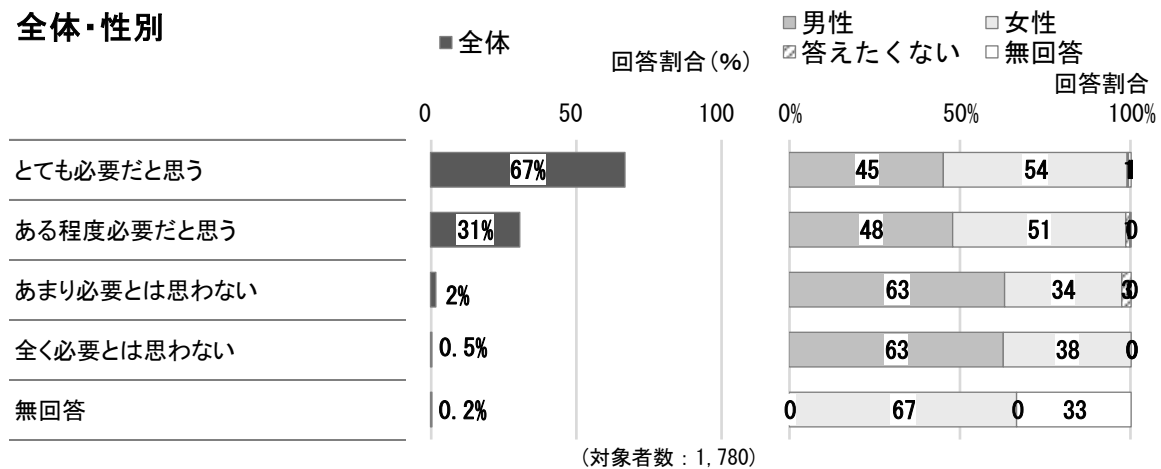
### 4.3 地球温暖化対策は必要だと思うか（問6）

「地球温暖化対策は必要だと思うか」の質問に対しては、「とても必要だと思う」との回答が最も多く全体で67%、「ある程度必要だと思う」と併せて98%が「必要だと思う」としていた。

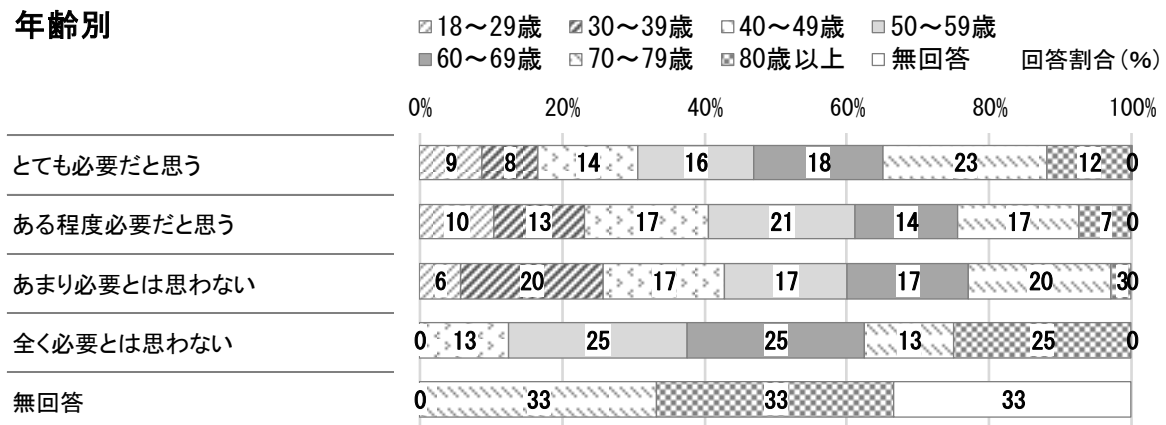
前回の調査結果と大きな差はなかった。

性別では「あまり必要とは思わない」との回答が、「男性」に比較的多く見られる傾向があった。年齢別では「70代」「80歳以上」において「とても必要だと思う」とする傾向が高く、「50代」では「ある程度必要だと思う」、「30代」では「ある程度必要だと思う」または「あまり必要とは思わない」とする傾向が見られた。居住地域別では、回答総数が少ない「必要とは思わない」回答にやや傾向差はみられるものの有意な差は見られなかった。

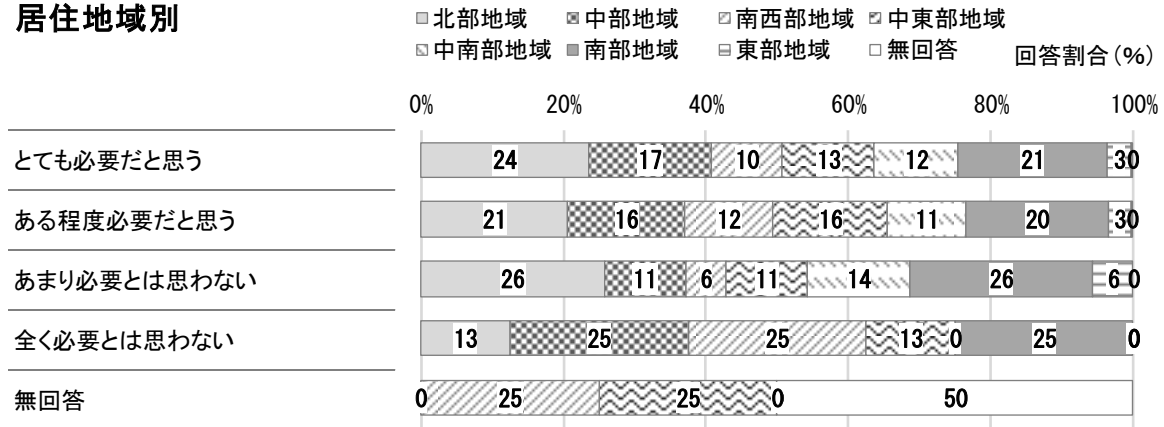
#### 全体・性別



#### 年齢別



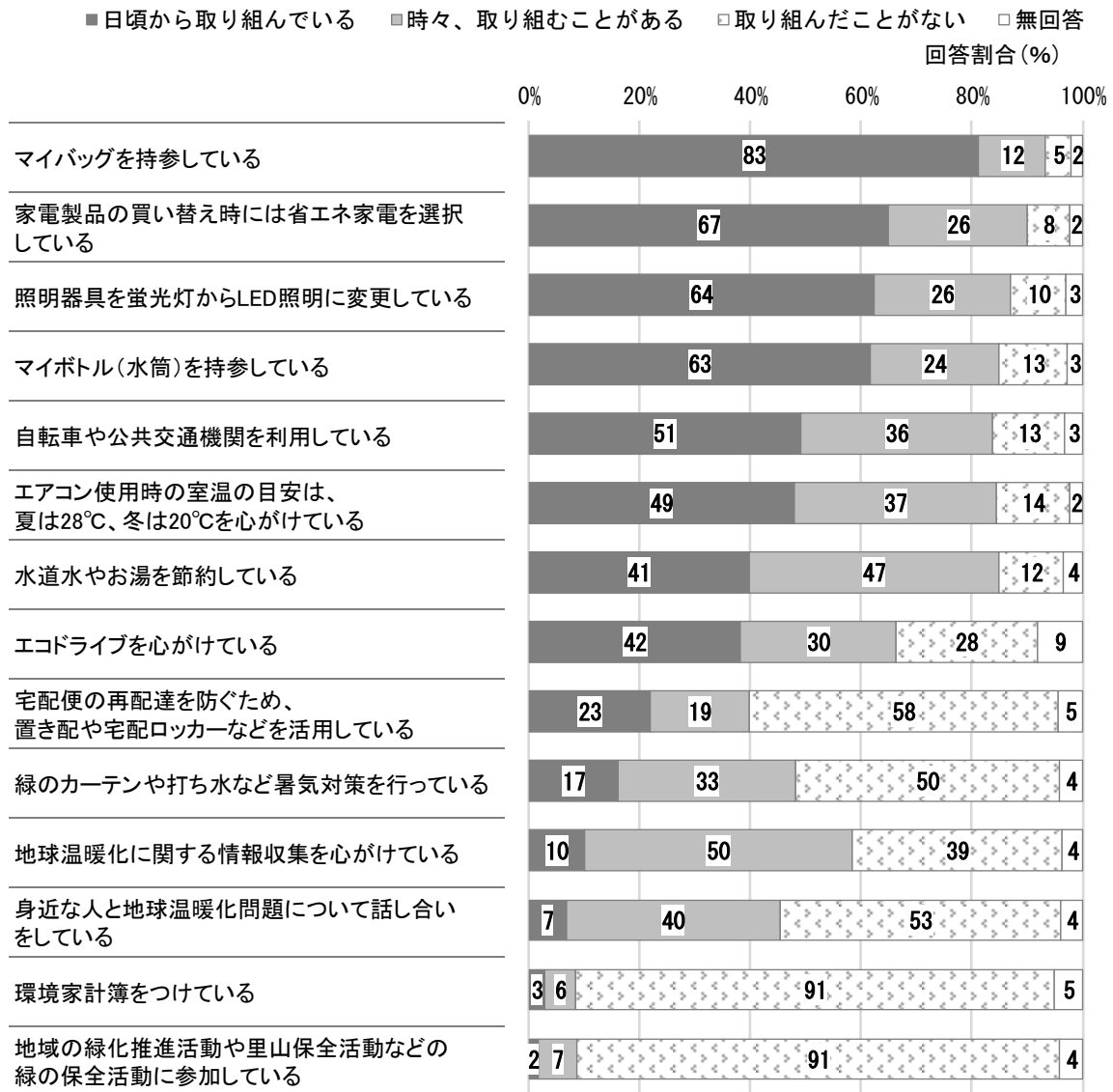
### 居住地域別



#### 4.4 日常的に行っている地球温暖化防止の取り組み（問7）

地球温暖化防止の取り組みとして、「日ごろから取り組んでいる」との回答がもっと多かったのは「マイバックの持参」で83%。次いで「省エネ家電の選択」が67%、「LED照明への変更」が64%、「マイボトル持参」が63%であった。「時々、取り組むことがある」を含めた「取り組んだことがある」項目で見ると、上記4項目に加え、「自転車や公共交通機関の利用」、「エアコン使用時の室温の心がけ」、「水道水やお湯の節」が9割近く以上であった。

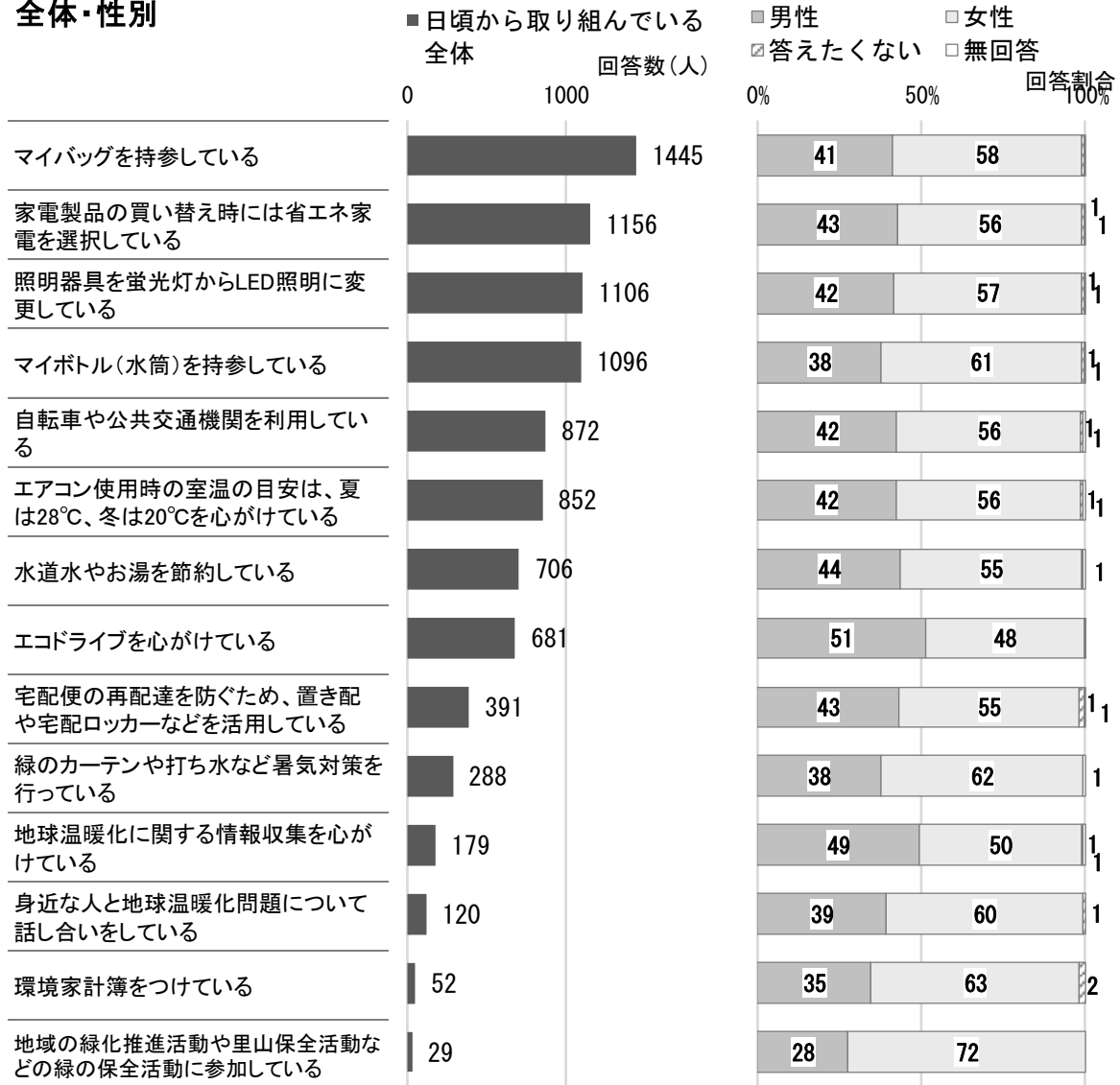
一方で、「地球温暖化に関する情報収集に心がけている」や「身近な人と地球環境問題について話し合っている」、「環境家計簿をつけている」、「緑の保全活動に参加している」といったことに「日頃から取り組んでいる」人は1割以下の状況であった。



(対象者数 : 1,780)

地球温暖化防止の取り組みとして「日ごろから取り組んでいる」項目について着目すると、性別では女性に「マイボトル持参」、男性に「エコドライブの心がけ」が比較的多い傾向がみられた。

### 全体・性別

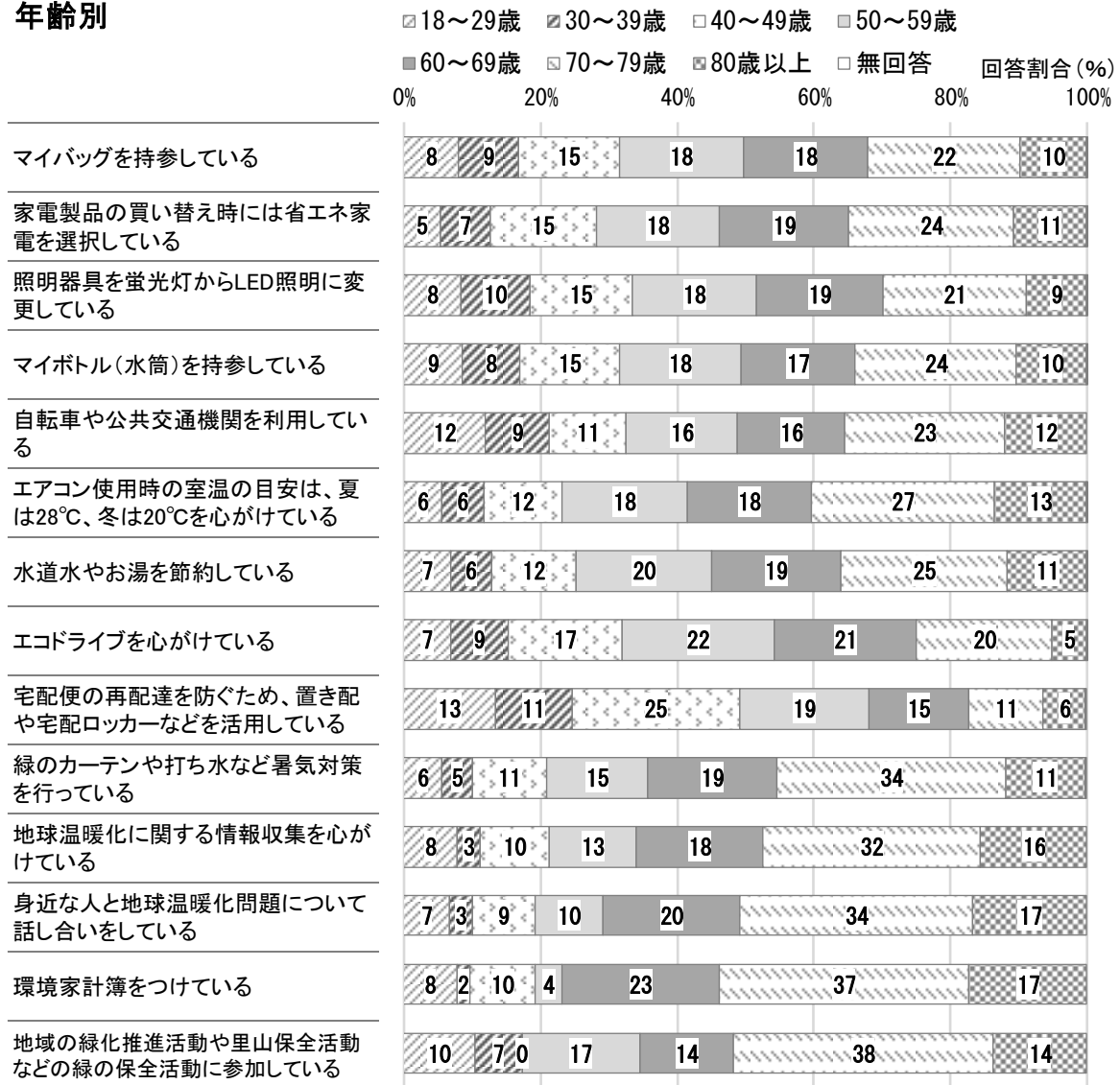


(対象者数：1,780)

年齢別で「日ごろから取り組んでいる」取り組みを見ると、「18～29歳」で「自転車や公共交通機関の利用」、「18～49歳」で「宅配便の再配達防止」への取り組みが比較的多く、「50代」では「エコドライブへの心がけ」、「70歳以上」においては、「エアコン使用時の室温設定配慮」、「地球温暖化に関する情報収集の心がけ」、「身近な人との地球温暖化問題についての話し合い」が比較的多い傾向が見られた。

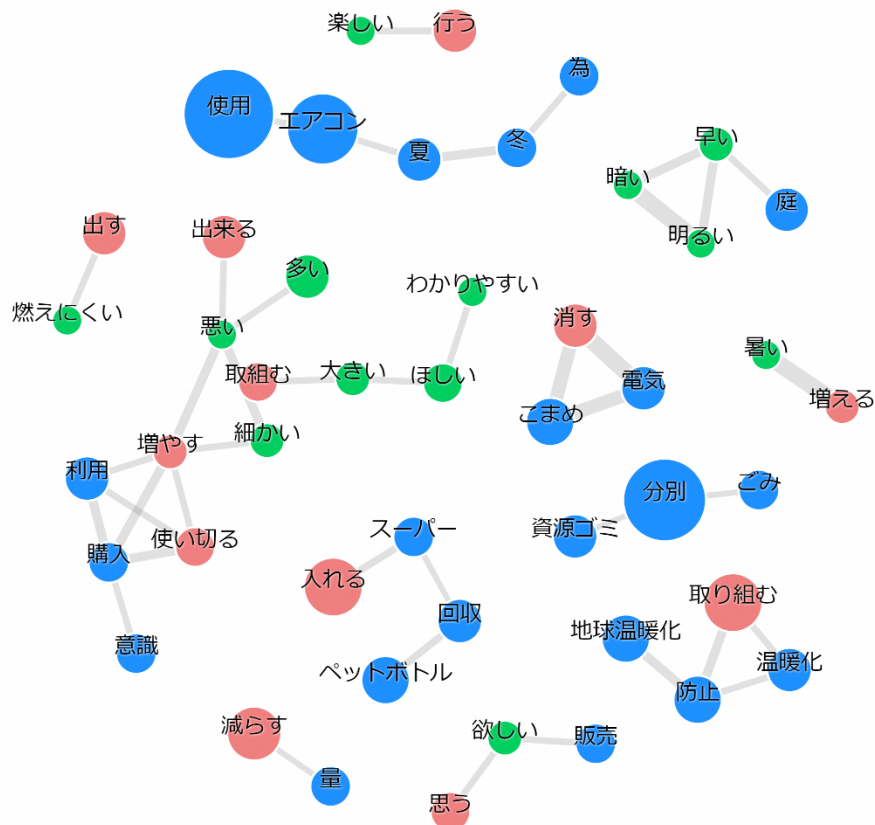
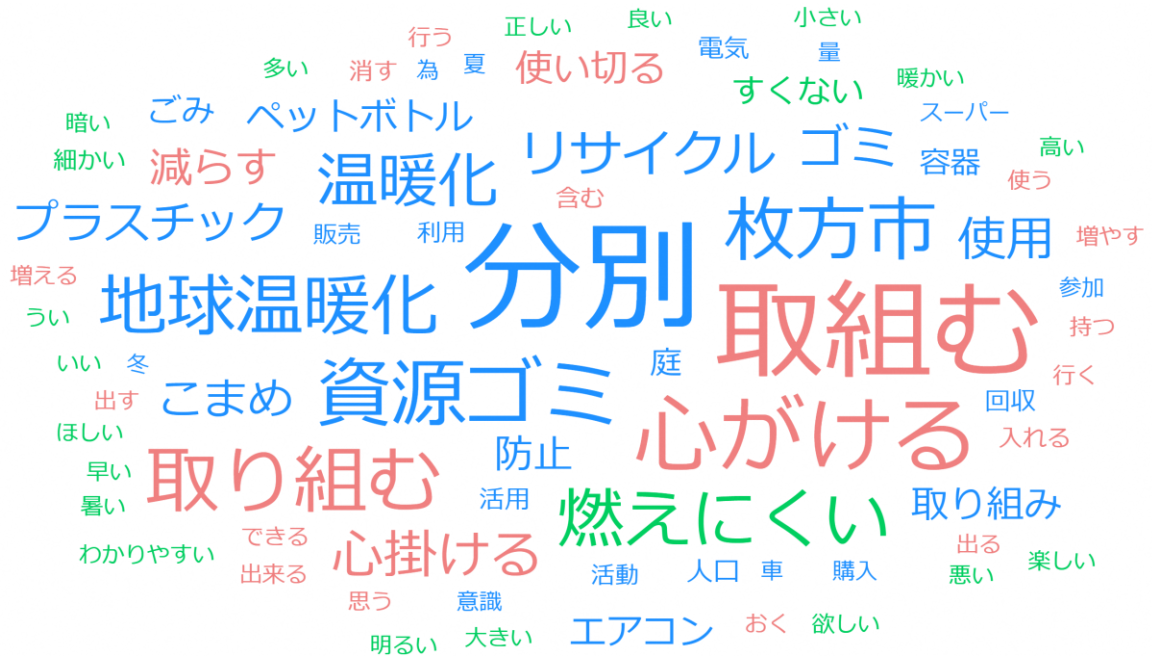
地域別では、「南西部」で「宅配便の再配達防止」を「日頃から取り組んでいる」とする傾向が比較的高く見られたものの、全般として地域による差はあまり見られなかった。

### 年齢別



【地球温暖化に関する取り組みの自由回答の概要】

地球温暖化に関する取り組みの自由回答を、テキストマイニングを用いて解析した。  
 ゴミの分別を心がけていることが良くわかる結果となった。





#### 4.5 国の「温室効果ガス実質的排出量ゼロ」宣言による取り組み姿勢の変化（問8）

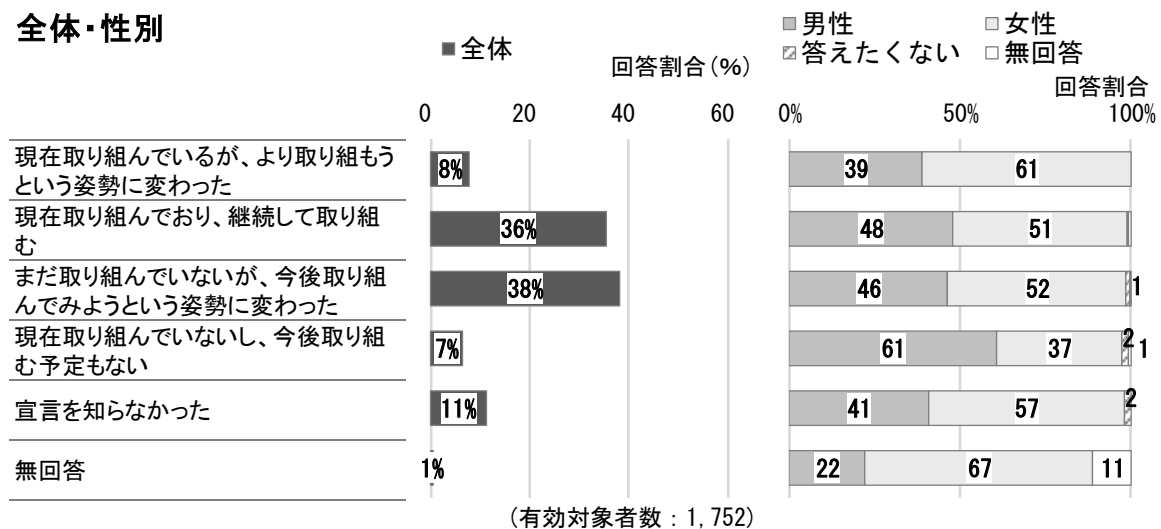
2020年に国により「2050年までに二酸化炭素を含む温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを目指す」と宣言されたことによる地球温暖化対策への取り組み姿勢の変化については、有効回答者全体の38%が「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」、36%が「現在取り組んでおり、継続して取り組む」と回答していた。一方で、11%は「宣言を知らず」、7%で「現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」としていた。

性別でみると、「現在取り組んでいるが、より取り組もうという姿勢に変わった」とする回答が「女性」に多い傾向が見られた。

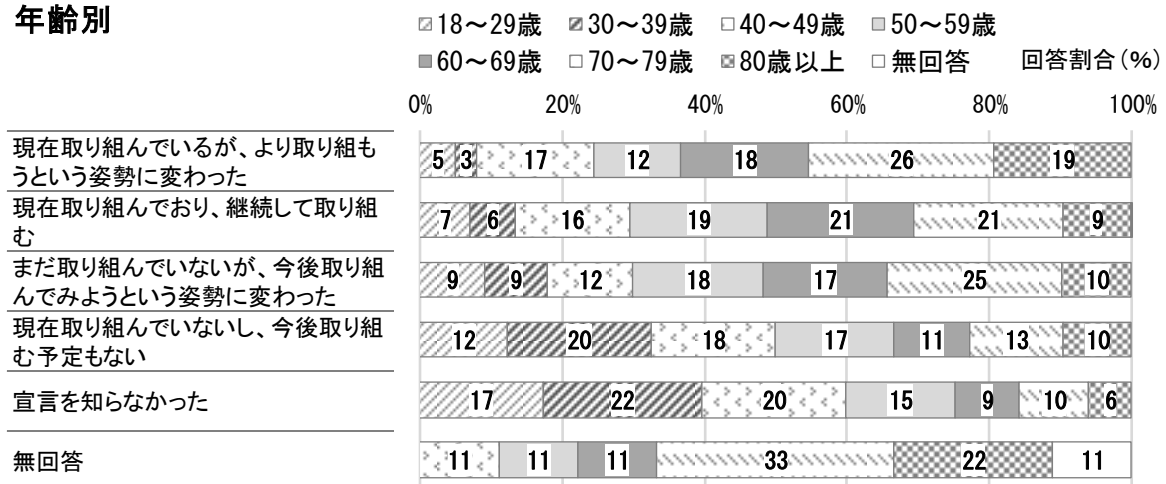
年齢では、「18～49歳」で「現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」とする回答が比較的多く、「60代」で「現在取り組んでおり、継続して取り組む」、「70代」で「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」、「80歳以上で「現在取り組んでいるが、より取り組もうという姿勢に変わった」と回答する傾向が見られた。

地域では、「中東部地域」「東部地域」で、「現在取り組んでいるが、より取り組もうという姿勢に変わった」とする傾向がみられたものの、全体的に地域差はあまり見られなかった。

#### 全体・性別



#### 年齢別

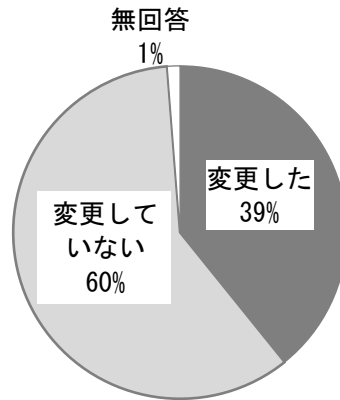


#### 4.6 電力小売全面自由化を受けての自宅の電力会社の変更について

##### (1) 電力小売全面自由化を受け自宅の電力会社を変更したか（問9）

2016年4月の電力小売全面自由化を受け、自宅の電力会社について「変更した」のは、有効な回答者数のうち4割で、6割は「変更していない」状況であった。

この回答は、性別、年齢、居住地域などの属性による差はあまり見られなかった。



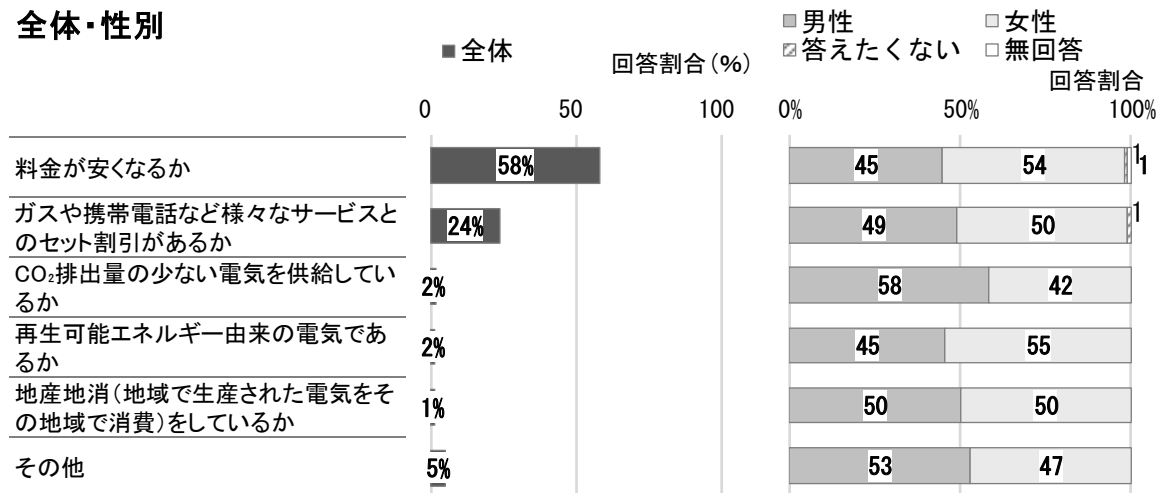
(対象者数：1,780)

##### (2) 電力会社を選ぶ際に最も重要視した点（問10）

電力小売全面自由化を受け自宅の電力会社を「変更した」と回答した人において、電力会社選択時に最も重視した点は、「料金が安くなるか」が最も多く58%、次いで「ガスや携帯電話など様々なサービスとのセット割引があるか」が24%であった。

性別では、特に「女性」で「料金が安くなるか」を重視する傾向がみられた。

#### 全体・性別

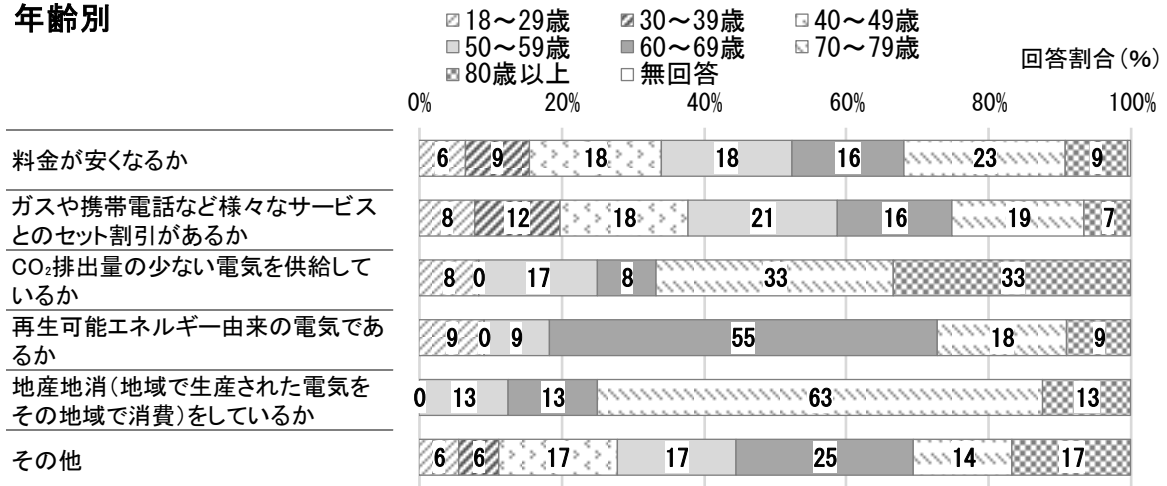


(有効対象者数：698)

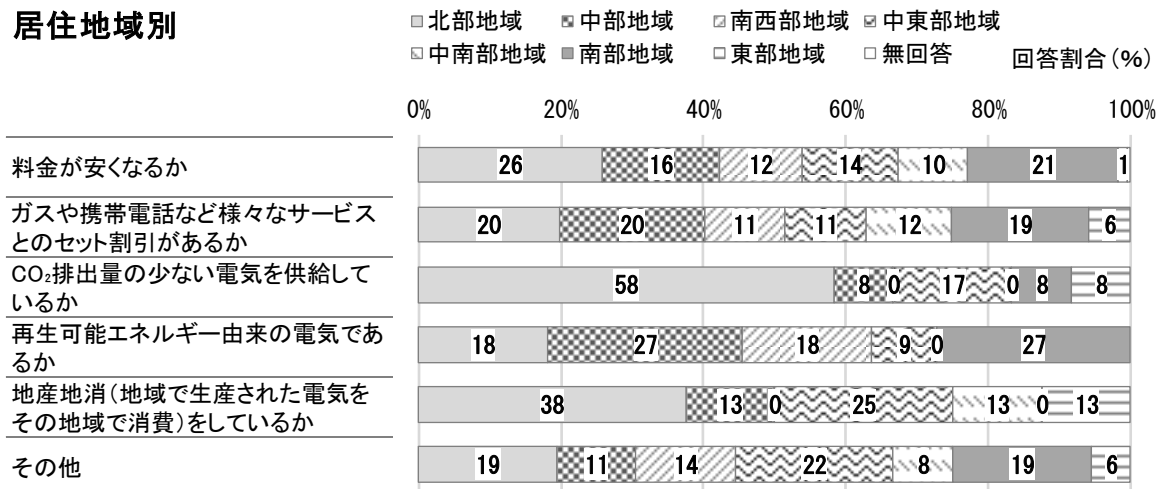
年齢別でみると、「40代」、「70代」で「料金が安くなるか」を重視し、「60代」では「再生可能エネルギー由来の電気であるか」、「70代」で「地産地消（地域で生産された電気をその地域で消費）をしているか」、「80歳以上」で「CO<sub>2</sub>排出量の少ない電気を供給しているか」を比較的重視していた。

居住地域では、「北部地域」、「南部地域」で「料金が安くなるか」を重視し、「東部地域」で「ガスや携帯電話など様々なサービスとのセット割引があるか」を重視する傾向が見られた。

### 年齢別



### 居住地域別



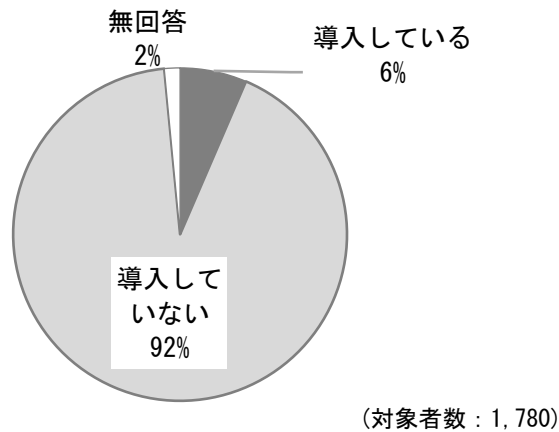
(有効対象者数：698)

#### 4.7 太陽光発電システムの導入について

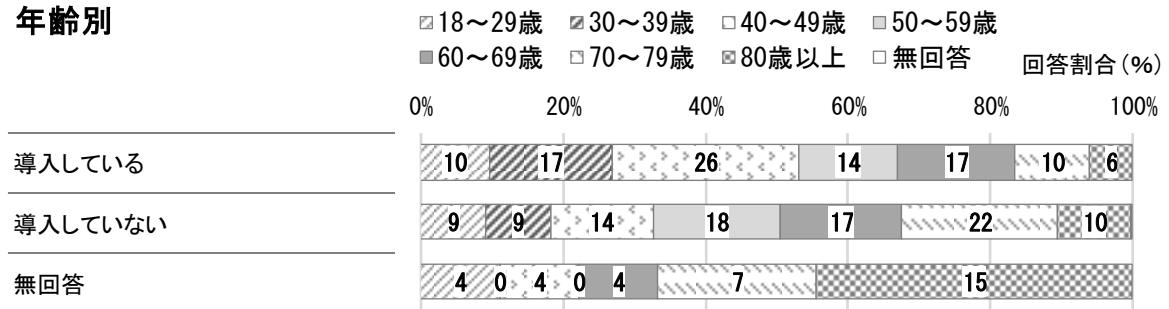
##### (1) 導入状況（問11）

太陽光発電システムを導入しているか否かについては、全体で「導入している」が6%で、92%が「導入していない」状況であった。

性別差は見られず、年齢別では、「導入している」のは「30代」「40代」で、「導入していない」のは「70代」で多い傾向が見られた。地域別では「東部地域」でやや「導入している」割合が多い傾向が見られたが、おおむね地域差は見られなかった。



##### 年齢別

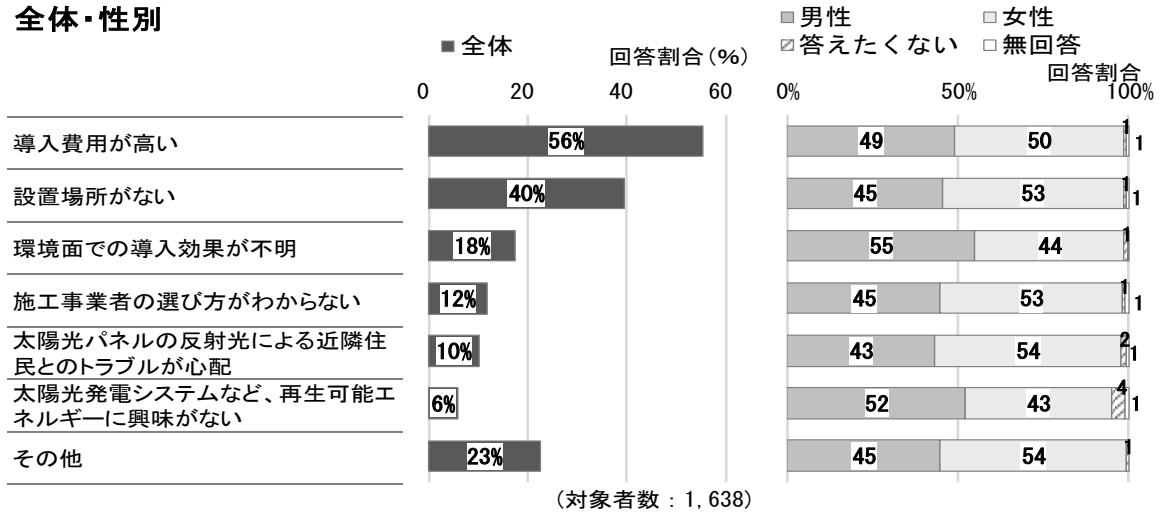


##### (2) 導入していない場合の理由（問12）

太陽光発電システムを導入していない場合の理由としては「導入費用が高い」ことが最も多く56%、次いで「設置場所がない」が40%であった。前回調査との比較では、傾向に差はみられなかった。

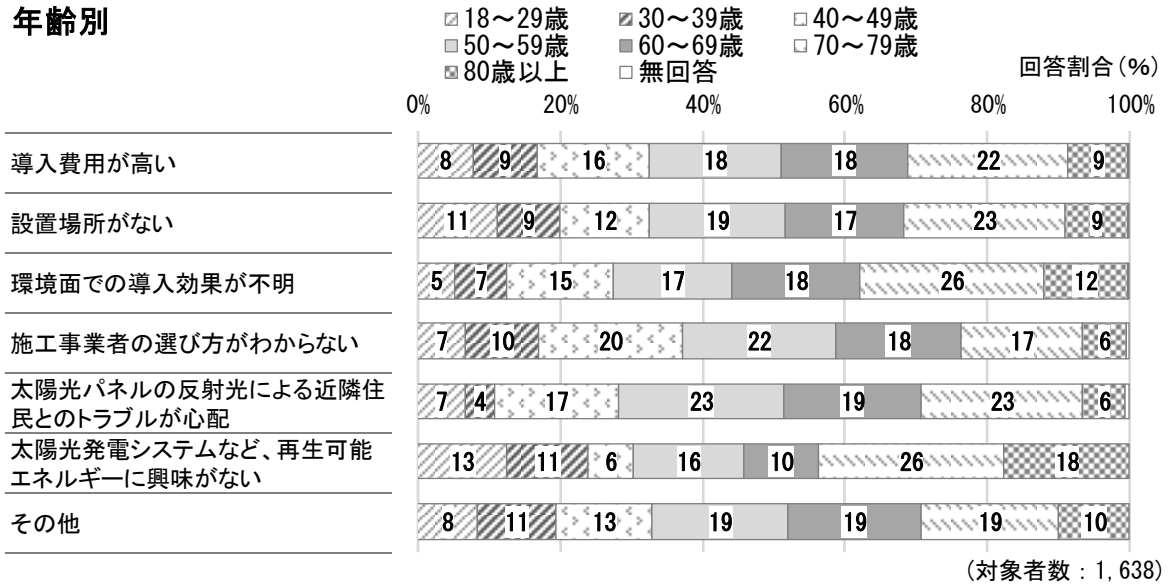
さらに「環境面での導入効果が不明」が18%で、「男性」にやや多い傾向が見られた。

### 全体・性別



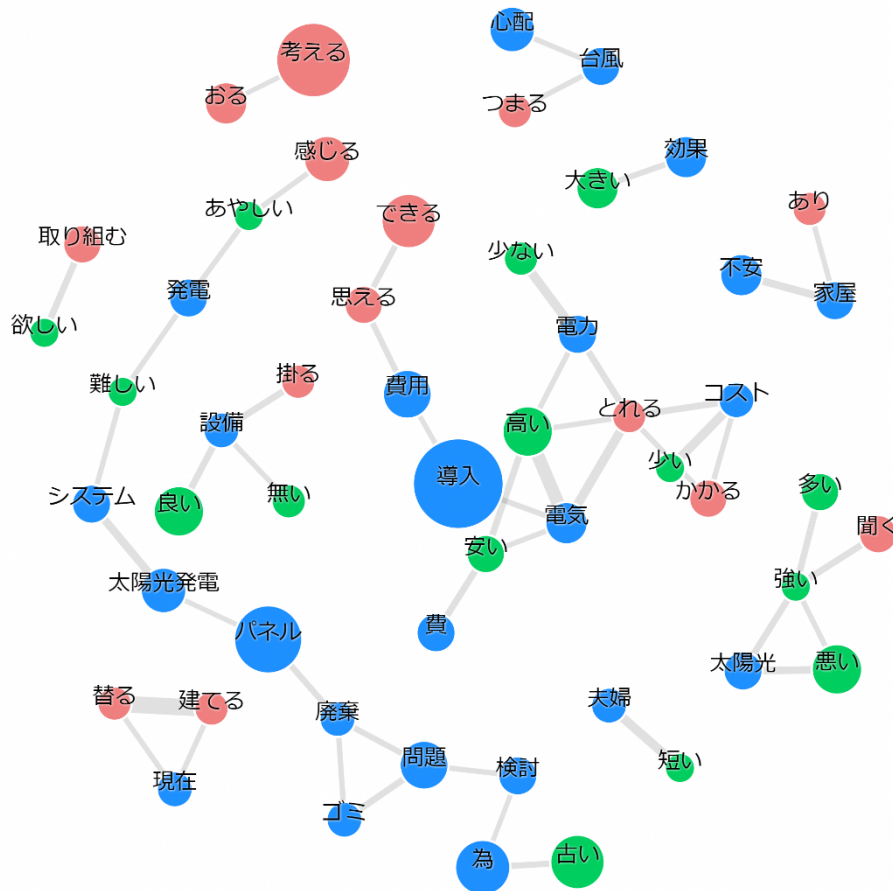
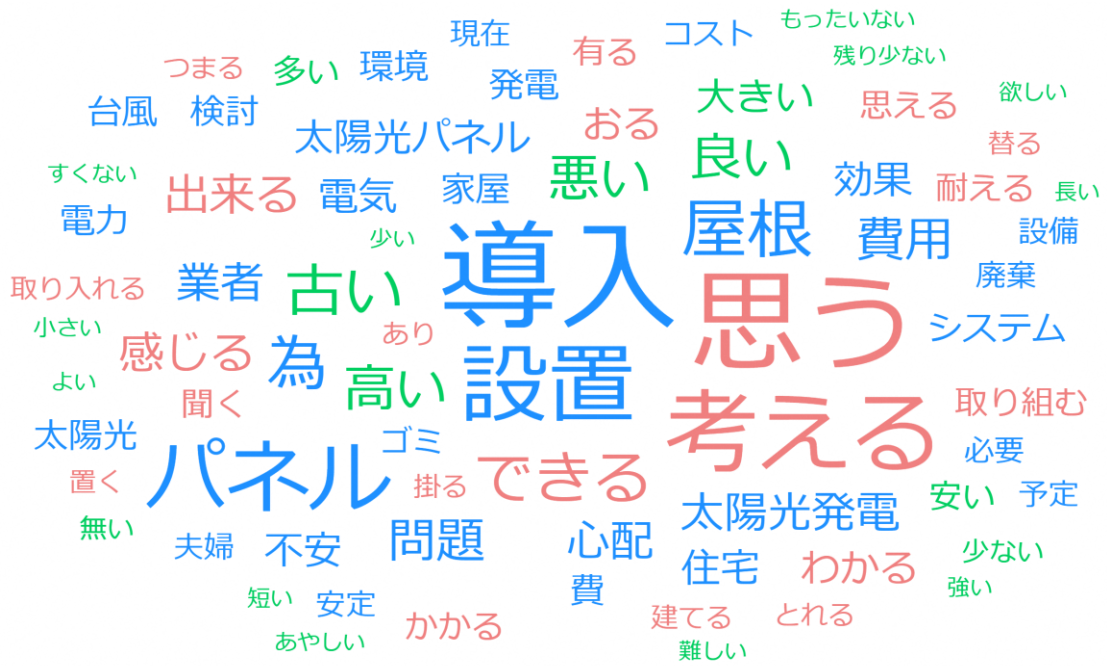
年齢別では、「18～29歳」で「設置場所がない」、「40代」で「施工事業者の選び方がわからない」、「80歳以上」で「太陽光発電システムなど、再生可能エネルギーに興味がない」ことを理由とする傾向が比較的多く見られた。なお、居住地域別では有意な差は殆ど見られなかった。

### 年齢別



【問12の自由回答の概要】

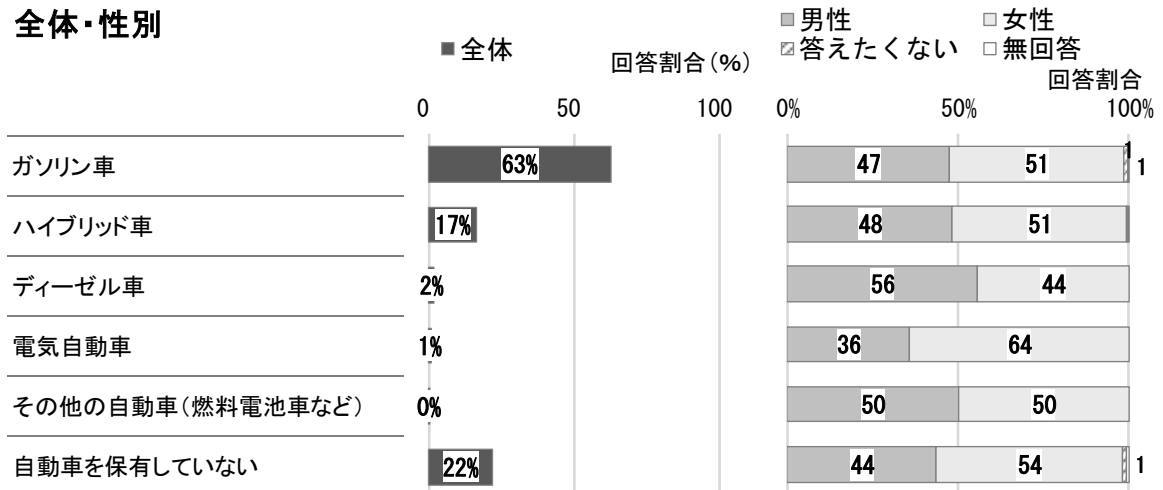
太陽光発電システムを導入しない理由の自由回答を、テキストマイニングを用いて解析した。費用が高いことと、パネルの廃棄におけるゴミ問題を心配する声が多くあった。



#### 4.8 自動車の保有状況について

##### (1) 家庭での自動車の保有状況（問13）

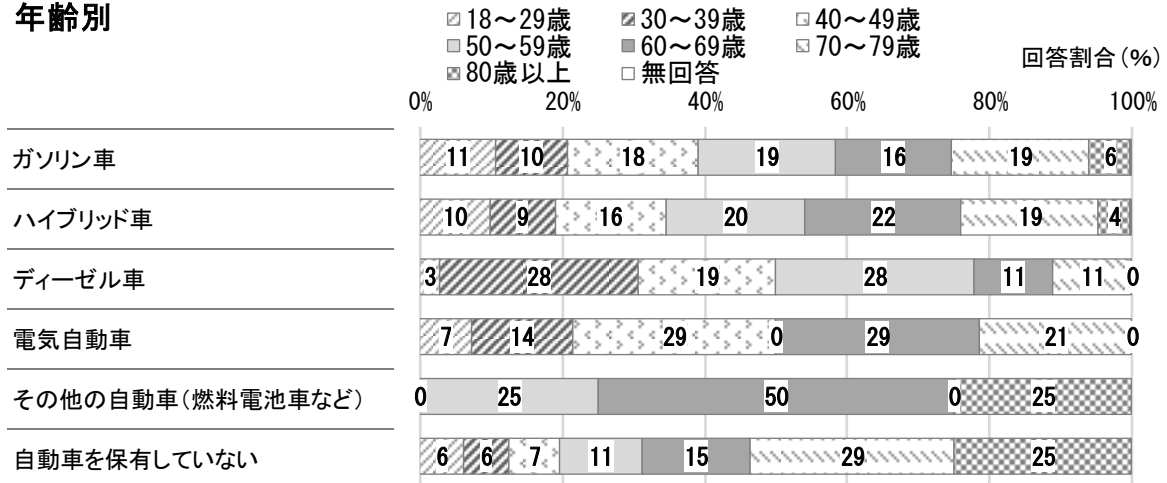
家庭で保有しているすべての自動車でも多かった「ガソリン車」の保有率は63%、「ハイブリッド車」は17%、「電気自動車」は1%で、22%が「自動車を保有していない」状況であった。なお年齢別での有意な差は見られなかった。



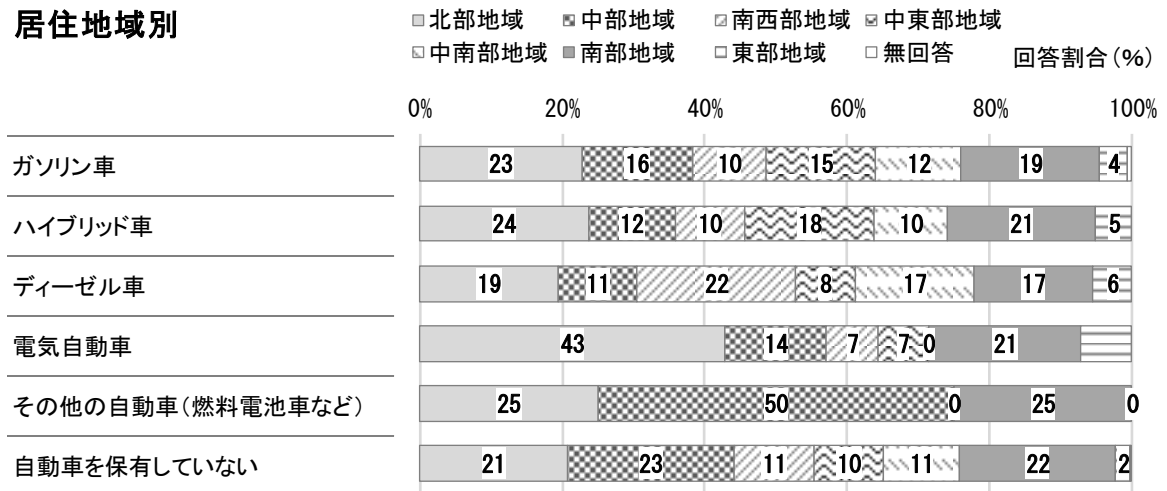
年齢別では、「30代」で「ディーゼル車」、「60代」で「ハイブリッド車」の保有が多く、「70代」、「80歳以上」で「自動車を保有していない」傾向が高く、その他の世代で相対的に「ガソリン車」の保有が比較的多い状況となっていた。

居住地域別では、「中南部地域」で「自動車を保有していない」率が比較的高く、「南西部地域」で「ディーゼル車」、「中東部地域」で「ハイブリッド車」の保有が比較的多い傾向が見られた。

### 年齢別



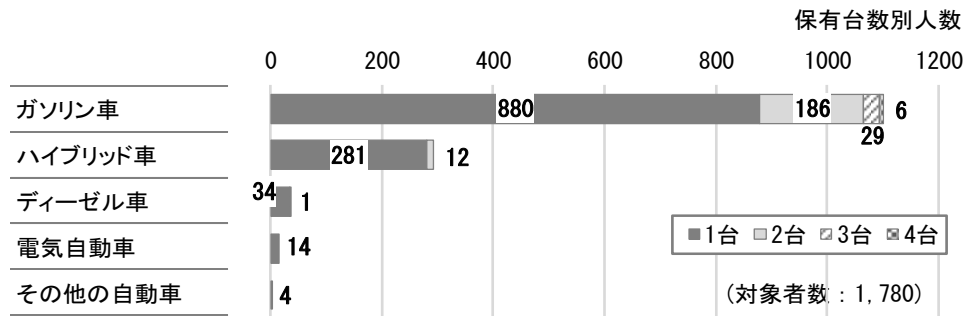
### 居住地域別



(対象者数：1,780)

保有台数としては、「ガソリン車」保有の2割が2台以上の保有であったが、「ハイブリッド車」は「2台」が12人、「ディーゼル車」は「3台」が一人、「電気自動車」、「その他自動車」で2台以上の保有は見られなかった。



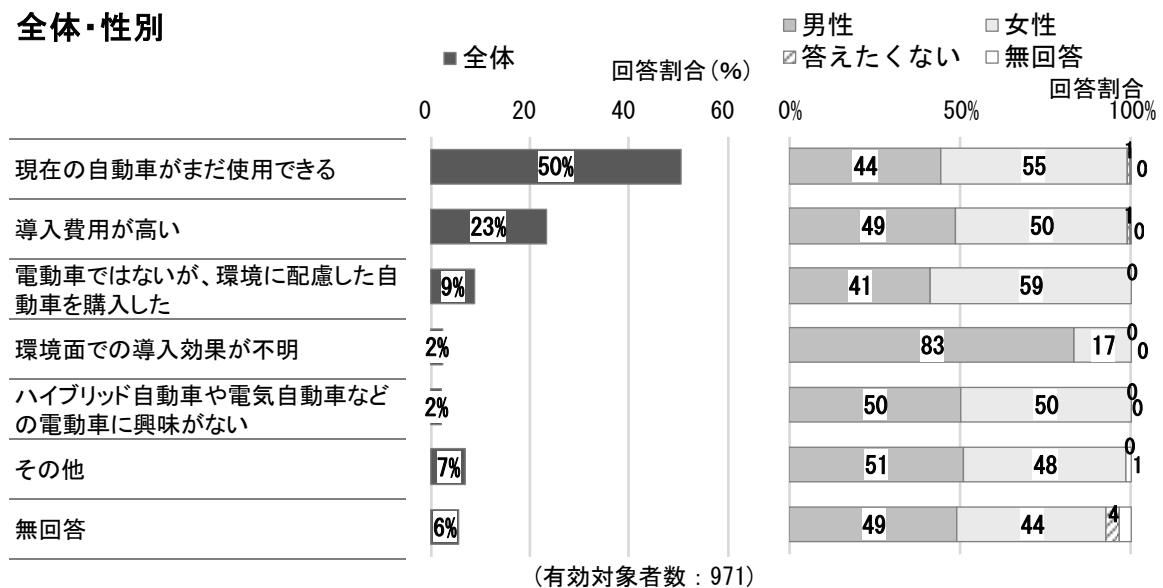


(2) 電動車を所有していない最大の理由（問14）

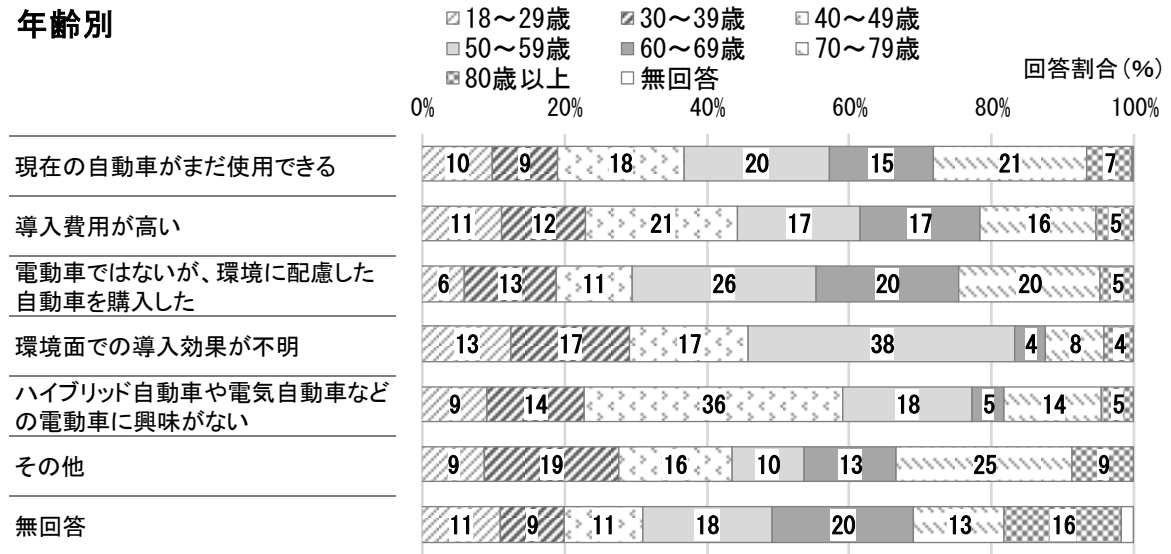
自動車の保有状況として「ガソリン車」、「ディーゼル車」のみであった方における、電気自動車を所有していない最大の理由としては、「現在の自動車がまだ使用できる」が最も多く50%で、次いで「導入費用が高い」が23%であった。「環境面での導入効果が不明」を理由としていた人は全体の2%と少なかったが、「男性」に多い傾向が見られた。

年齢別では、「40代」で、「ハイブリッド自動車や電気自動車などの電動車に興味がない」、「50代」で「環境面での導入効果が不明」を理由とする傾向が見られた。

全体・性別



年齢別







番号	内容
1	電気自動車が正解ではない
2	高齢者の為
3	自動二輪車でかつEV仕様がないため
4	分からない
5	好きな自動車が電気自動車でない
6	車への興味や思い入れがそれほどない
7	充電エリアが少ない
8	ハイブリッド車を利用していたがバッテリーの交換にコストがかかりすぎた。
9	車に乗る回数が少ないため
10	知人より譲り受けたので
11	バッテリーがへたることによるランニングコストの上昇
12	電気ステーションが身近にない
13	コロナ下で、出掛ける機会も少なく近隣は全て歩くかママチャリで移動している。
14	電気自動車に乗りかえたいが充電場所不足が不安
15	会社から借りている車だから
16	同居人が好きな車を選んだのがガソリン車だったから。
17	あてはまる車がない軽商用車の為
18	まだ良くわからないので、色々な情報がない。
19	身近に充電可能な場所が無い
20	魅力的な車が無い
21	ディーゼルは仕事上荷物の送り必要なハイエース。ガソリン車は大型バイク。
22	ガソリンスタンドの様に全国にあまねくスタンドがまだないので不便なため。
23	電池の寿命
24	運転者（現在78才）が来年運転免許更新時期を迎える為、来年9月で軽自動車も手離す予定にしている。
25	まったく効果がない
26	2022年3月に廃車する
27	自宅周辺に電動車用の充電施設がないため
28	維持費の低額なものが少ない
29	分からない
30	車には乗らない
31	充電設備が不十分
32	高齢なので、近い将来車を手離す事を考えている。
33	将来的には考えたい。今は電動車は市場でも選択肢が少ない。いつまでのれるのか。

番号	内容
34	電動車特有の部品や、電動車が使う電気などは環境負荷がかかっており、今の状況で本当にガソリン車に比べ、WelltoWheel など総合的に考え、電動車の方が環境的に優位か全くもって不明瞭だから
35	自宅に駐車場がないので、充電器を置けない。
36	そろそろ免許返納か？
37	電気のスタンドが少ない
38	週末ドライバーでありあまり遠出もほとんどしないため割高なエコカーは購入してもその分の効果あまり期待できない
39	家族が所有者のため
40	充電する場所が少ない
41	電気を発電するために、CO2 排出している現状を考えると効果が思いの外少ないのではないか？情報不足です。
42	※2 の説明も誤りである。燃料・エネルギーは現技術ではストレートに使うのが一番効率が良い。電気などは発電で CO2 が出る。
43	①電力をつくり出す為に化石燃料を使用する為、結局同じことと考える。②電磁波による健康被害を心配。
44	乗りたい車に対応していない。対応していたら電動にしたい。
45	電磁波が気になる。駐車場が賃貸で設備がない。
46	必要なし
47	製造から全体を通した環境への効果が十分証明されていない。
48	現在使用のガソリン車で、以前ハイブリッドに乗っていたが、燃費が悪く、初期（購入）価格で元がとれない為、ガソリン車に変更した。
49	次は、EVorHV にしたい
50	EV にしたくても、駐車場（マンション）に充電設備がない。
51	自動車という大きな買物を気軽にできる訳でもないし、いつまでも乗り続けるつもりで購入した。車1台どれだけのゴミになるのか。
52	電気自動車にしたいが、集合住宅のため、電源設置不可
53	充電に時間がかかりすぎ。電動車は走行距離が劣る。
54	移行段階で、まだ技術確立が不完全かつ自動運転への MIX を期待
55	免許返納(平成 29 年 3 月 10 日)
56	いくら補助金や税金優遇制度があっても車が高いうえ航続距離が短いうえ充電時間がかかるから
57	世の中の車が全て電動車になった場合、その電気はどうするのでしょうか。電力不足に落ち入りませんか。すべて電動車になった場合、これだけの効果があるというのを具体的に示してほしい。ガソリン車から出る CO2 を減らせても電気を創る際に

番号	内容
	C02を出していれば本末転倒となるように思います。(まさかの原発によるなんてこと言わないでしょうね。)
58	安定的電力供給体制(原発含む)充電ステーションの構築(都市部での充電時間と過疎地でのステーションの数)に不安バッテリーの供給体制に不安
59	余りむつかしい事は分からない
60	まだ使用できるし、来年引っ越すと共に車を電気自動車に替える
61	満充電で500km走れないから。
62	電気自動車の電気作成にC02が多く排出され意見ない
63	はい車
64	メンテナンスコストが高い
65	充電出来るところが少ない
66	年齢的に後3~4年で免許返納する事になると思う
67	年なので最後まで乗る
68	今年34年目の車検をうける軽自動車を使用中です
69	みんながガソリン車だから電気自動車をあまり見ない。だから乗るのがこわい。なれないものにのるよゆうがない。
70	週末しか乗らない人にとっては導入費が高いが興味はある
71	好きな車種がガソリン車だった
72	知識がほとんどない為です。
73	駐車場を借りていて充電設備がない充電用発電にC02が出る
74	年令的に新しくかえる予定がない
75	ない
76	火力発電が主体のため、ガソリン車の方が結果的に排出量が少なくなると考えられるため
77	電動車の基となる電力もその発電について疑問点があるから
78	電動車を利用する環境が整っていない
79	充電できる場所が少なく時間もかかるから
80	頻繁に使用しないし、ガソリン代の方がハイブリッドよりやすいから
81	年令の為(69才)今の自動車で終わりにします。
82	高令者であり次回免許証更新しない
83	昔からの車らしい車がなくなる事が残念だから。
84	運転できない
85	ハイブリッド車に変更予定
86	結局、電気にたよる事も、環境に悪影響
87	夫が選んでいる為
88	トータルコストパフォーマンス

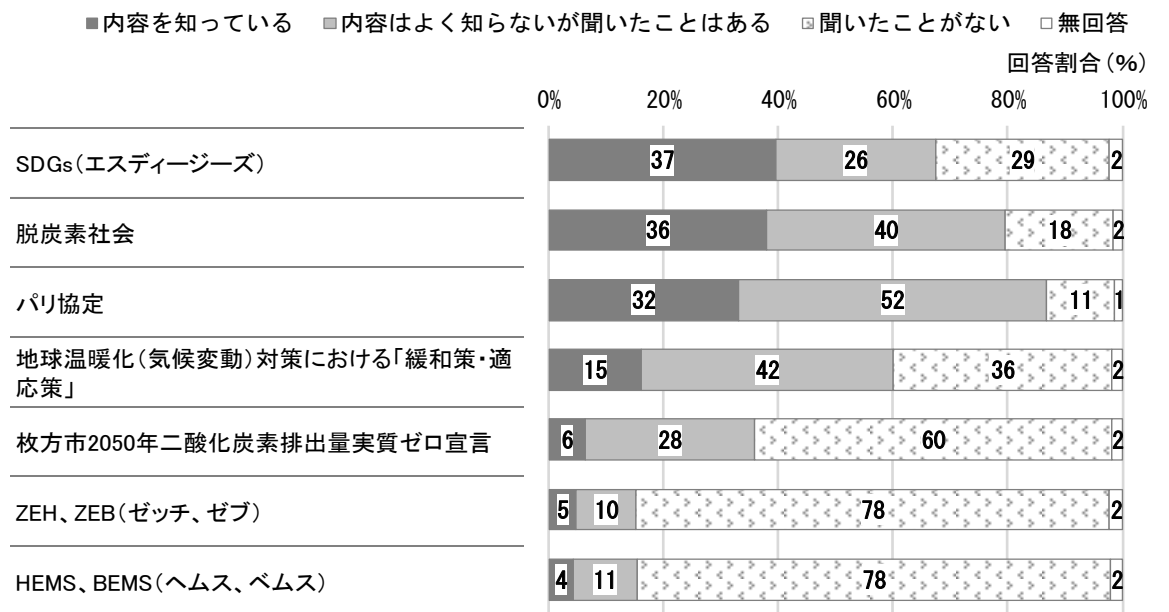
番号	内容
89	後、数年で返納の予定（免許証）
90	高齢により再購入の予定なし
91	購入車種にハイブリッド車がなかった
92	5年後には、車を廃車する
93	来年の免許更新時に返納し自動車も処分するので。
94	導入は検討している。
95	荷室の大きさが自身の求める大きさに合っていない
96	走れるキョリが短い
97	実用に耐えると思えない
98	危険を感じる。例えば、エンジン音がほぼ聞こえず、年配の方が車に気づけないこと。
99	安全性や急に止まったりしないか心配。
100	免許返納する時がきたから
101	居住するマンションに電源設備がないため
102	デザイン等好みではない。
103	現状の充電施設の少なさに不安を感じる
104	思うように電気自動車のインフラが進んでいない
105	今の使用状況ではガソリン車の方がコストが低いため（土・日・休日のみ運転）
106	まだ使える事もあるが、次回買い替え時はハイブリッド車の予定
107	後期高齢者で返上しましたが、災害の折に自動車からの電源として電気自動車を活用出来ないかと考えた事があります。
108	ガソリン車は子供の分です。
109	次回購入時はハイブリッド車
110	今後1年強で免許返納を考えている
111	免許返納を考えている
112	遠方に出かけた際、充電に時間がかかり、充電場所も少ない
113	給電できる設備が現段階では少ない。ハイブリッド車にしてもインシヤル増分を回収できない。年間一万キロ。
114	乗りたい車にハイブリット車がない
115	もうすぐ使用しなくなるから



#### 4.9 地球温暖化防止に関連する言葉の認知状況（問15）

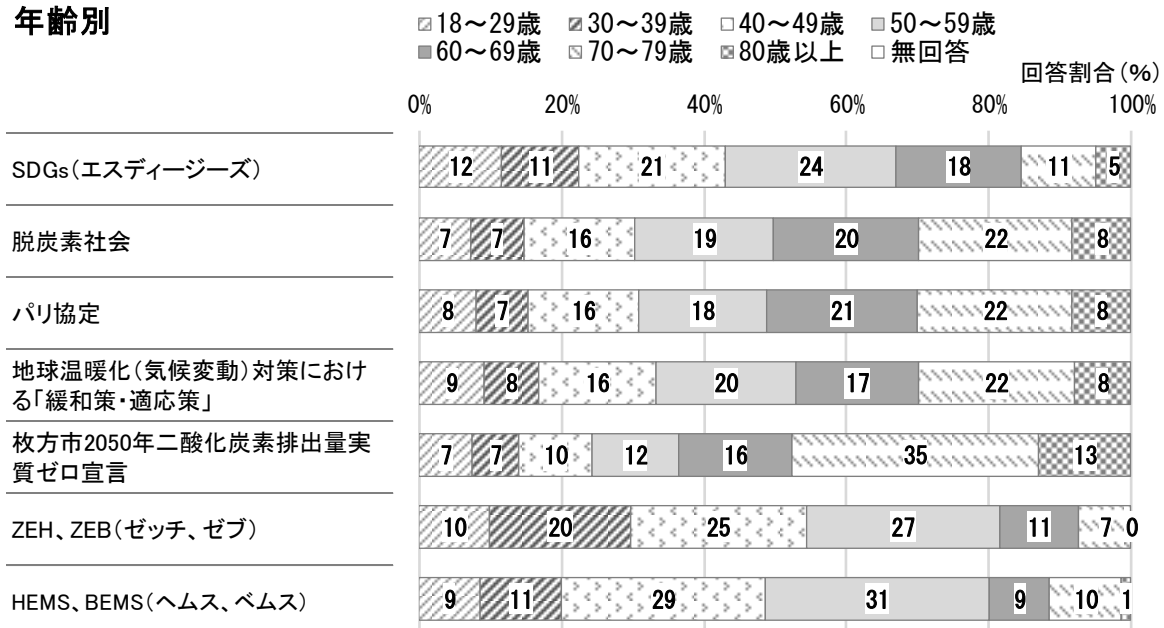
地球温暖化防止の取り組みに関する言葉の認知状況として、「SDGs」、「脱炭素社会」、「パリ協定」が「内容を知っている」とされた率が3割以上あり、その順に認知度が高かったが、「内容はよく知らないが聞いたことはある」を含めると、いずれも半数以上で認知順は逆転となっていた。「地球温暖化対策における緩和策・適応策」についても「聞いたことがある」を含めれば半数近くであったものの「内容を知っている」割合は15%で、「枚方市2050年CO<sub>2</sub>実質ゼロ宣言」については「聞いたことはある」を含めても3割程度で、「ZEH、ZEB」、「HEMS、BEMS」はあまり認知されていなかった。

年齢で見ると、「50代以下」で「SDGs」の認知が高い傾向があり、「30代」で「ZEH、ZEB」、「40代」で「HEMS、BEMS」、「70代」でその他の言葉の認知度が比較的高かった。



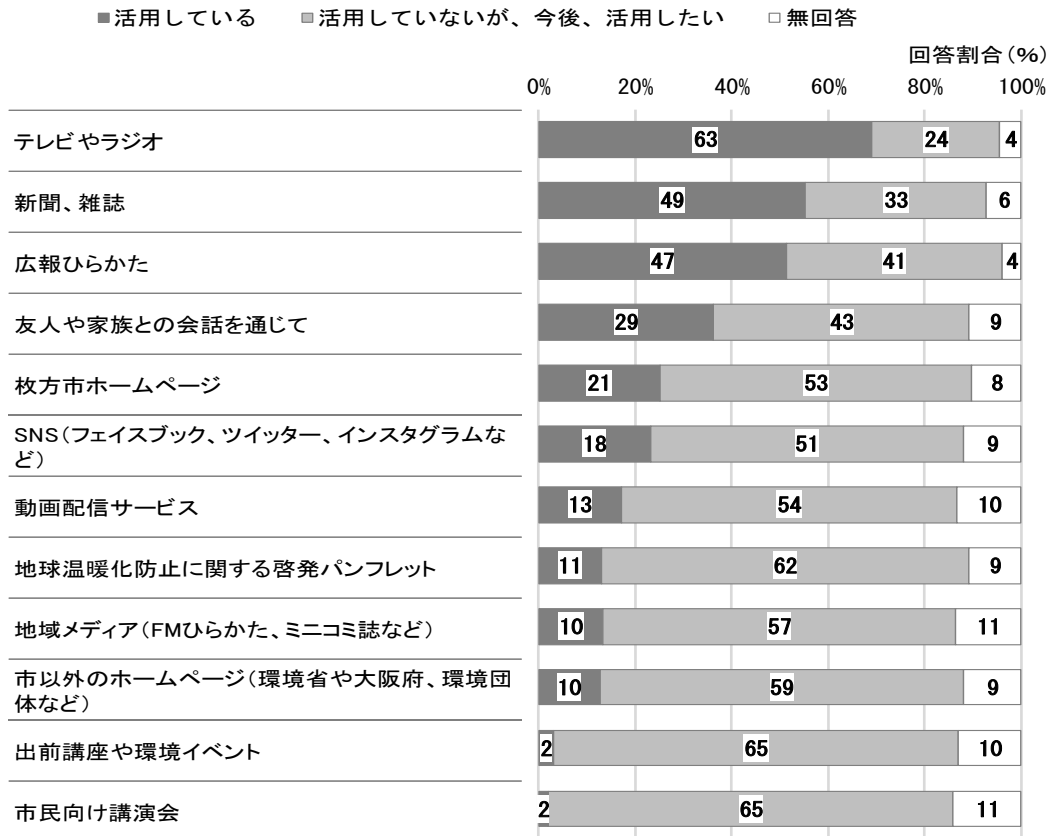
(対象者数：1,780)

#### 年齢別



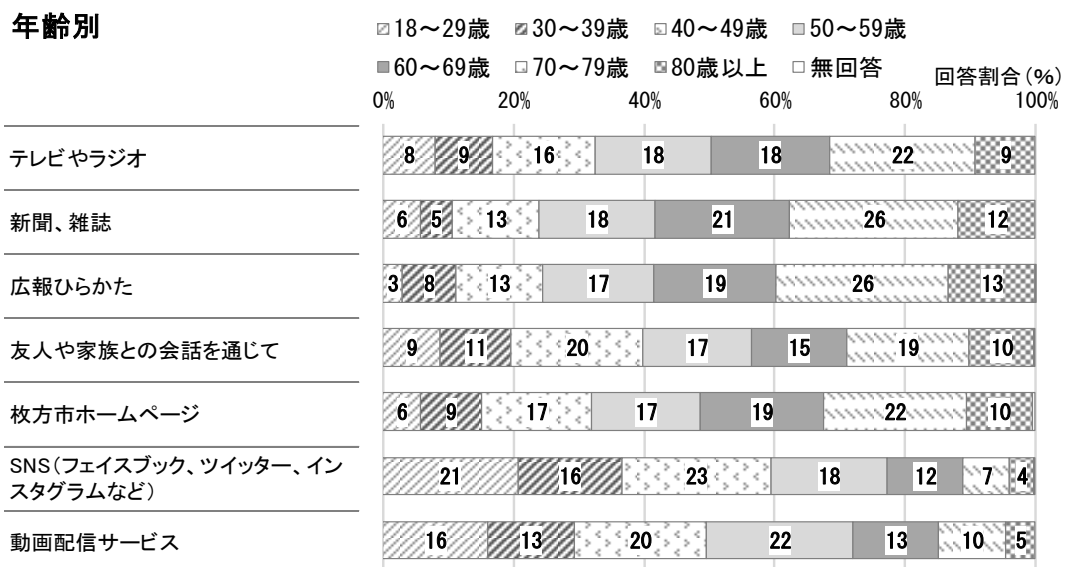
#### 4.10 「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための手法（問16）

「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための方法として、「活用している」割合が最も高かったのは「テレビやラジオ」で63%、次いで「新聞、雑誌」が49%、「広報ひらかた」が47%であった。「活用している」と「活用していないが、今後、活用したい」を合わせると、上記3項目で95%、その他殆どの手法においても90%となっていた。



(対象者数：1,780)

「活用している」手法について上位項目を年齢別でみると、「新聞、雑誌」は「60代」「70代」、「広報ひらかた」は「70歳以上」、「SNS」は「50歳未満」、「動画配信サービス」は「40歳未満」に多い傾向が見られた。

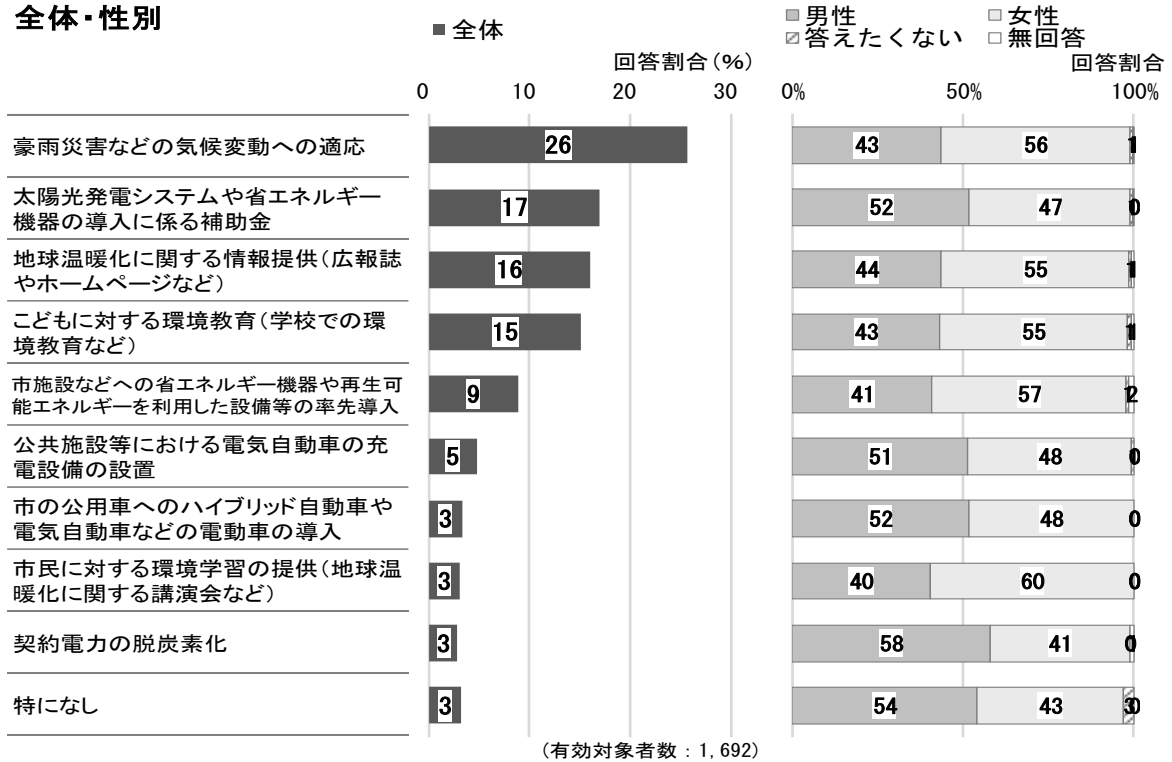




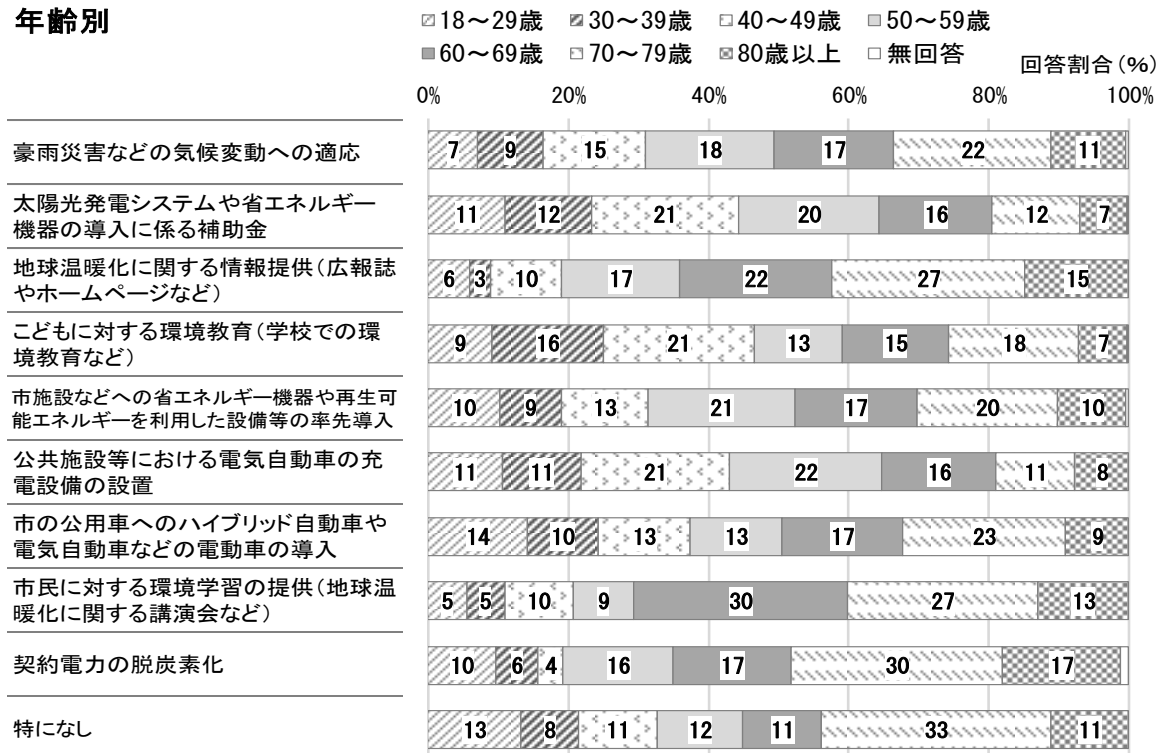
#### 4.11 今後、枚方市に期待する地球温暖化対策（問17）

今後、枚方市に期待する地球温暖化対策としては、「豪雨災害などの気候変動への適応」が26%で最も多く、次いで「太陽光発電システムや省エネルギー機器の導入に係る補助金」が17%、「地球温暖化に関する情報提供（広報誌やホームページなど）」が16%、「こどもに対する環境教育（学校での環境教育など）」が15%であった。性別では「補助金」に対して「男性」の意向が比較的強く、年齢では「補助金」や「環境教育」が「40代以下」で、「情報提供」が「60代以上」で比較的多い傾向が見られた。

##### 全体・性別



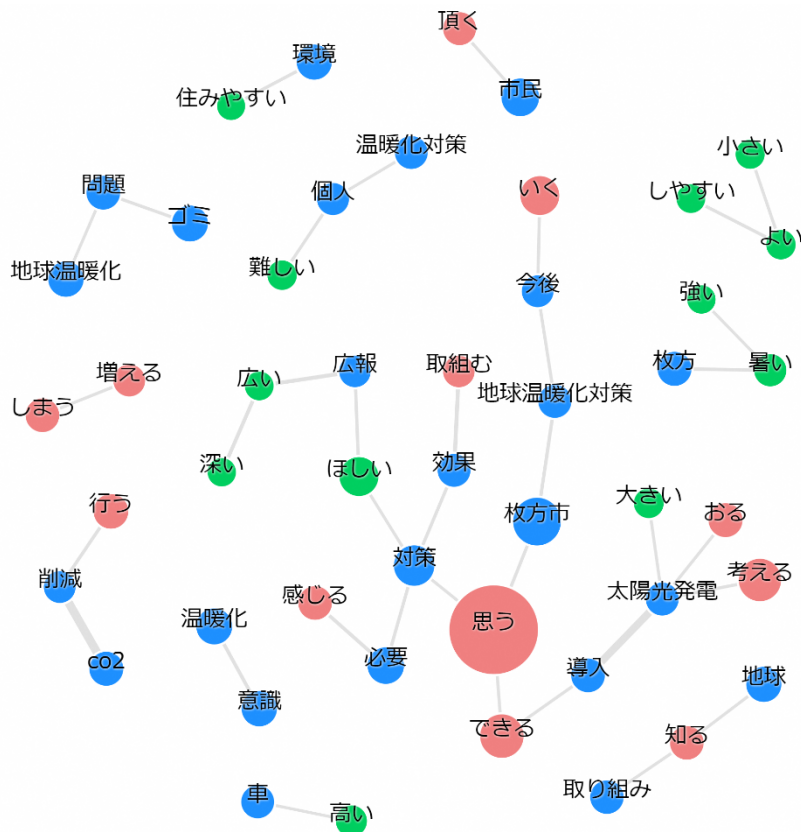
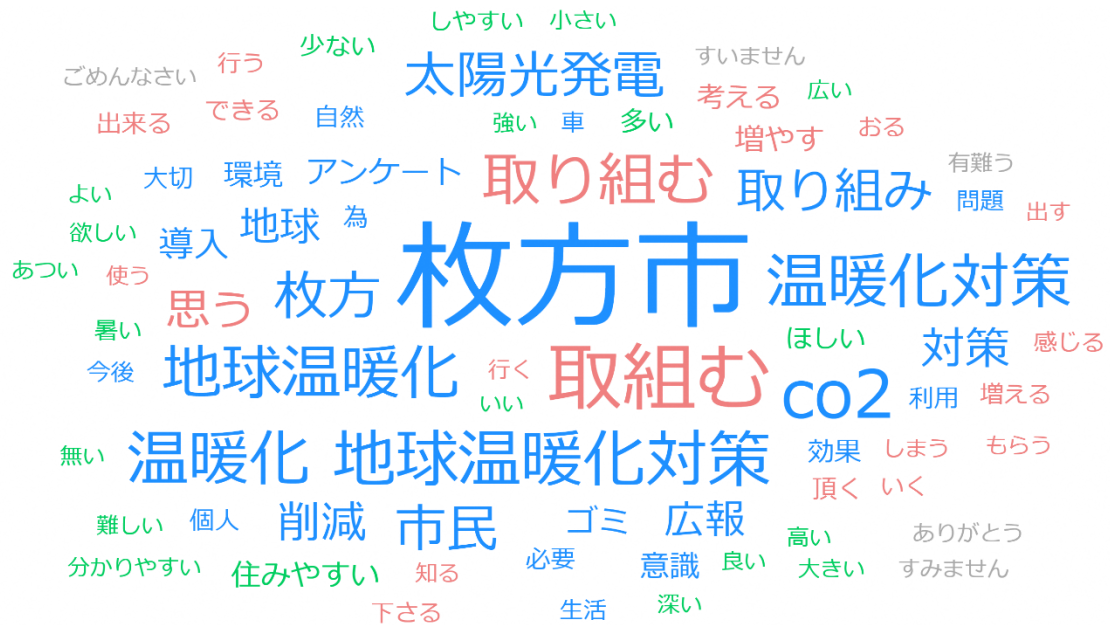
##### 年齢別



【問19の自由回答の概要】

地球温暖化対策等に関する自由回答意見について、テキストマイニングを用いて解析した。

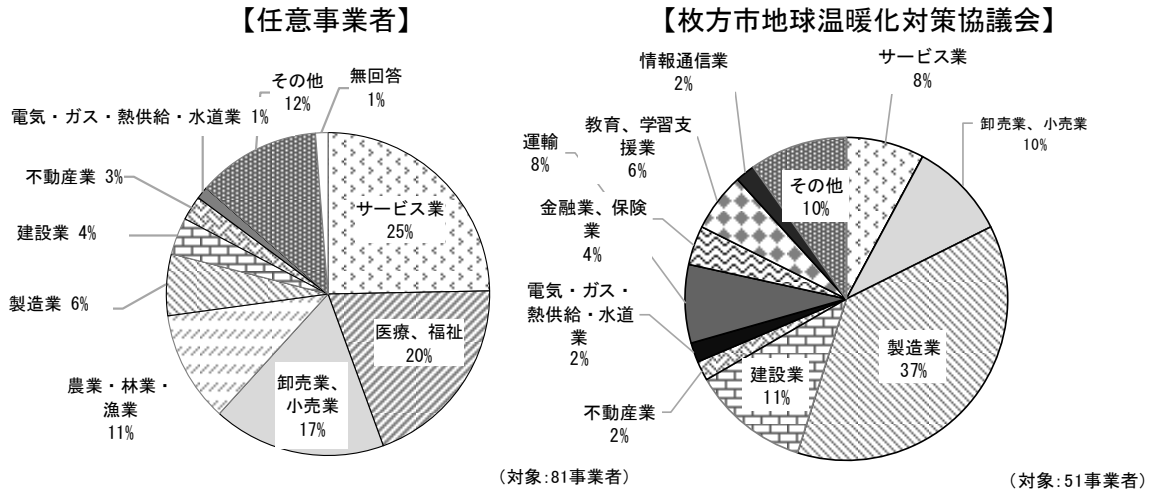
市の取り組みについて知らなかったという意見や、それをもっと周知してほしいといった意見が多くあった。また、前の質問での太陽光発電システムや電動車について、導入したいけど費用が高いので補助金が必要だという意見があった。



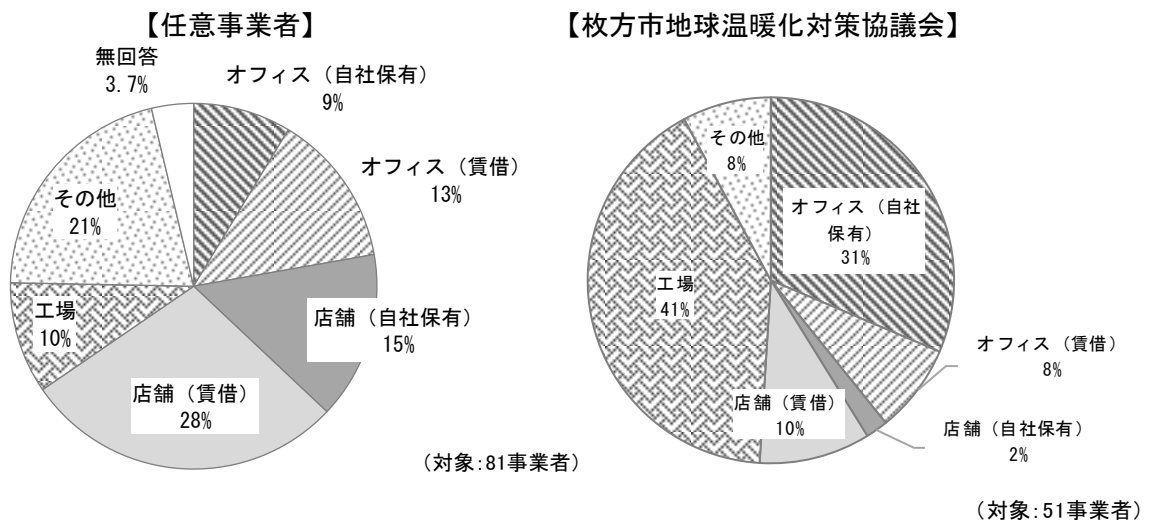
## 5. 事業者へのアンケート集計結果

### 5.1 回答者の属性

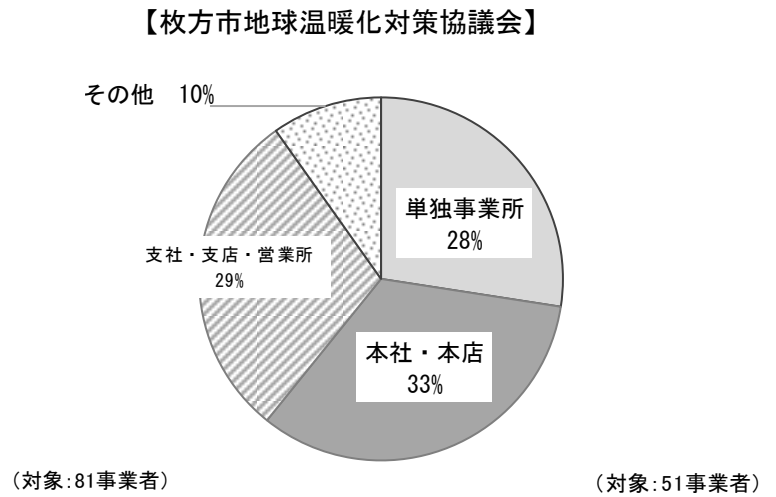
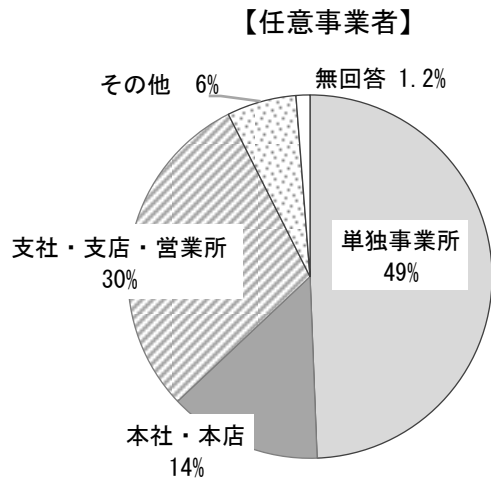
#### ■業種（問1）



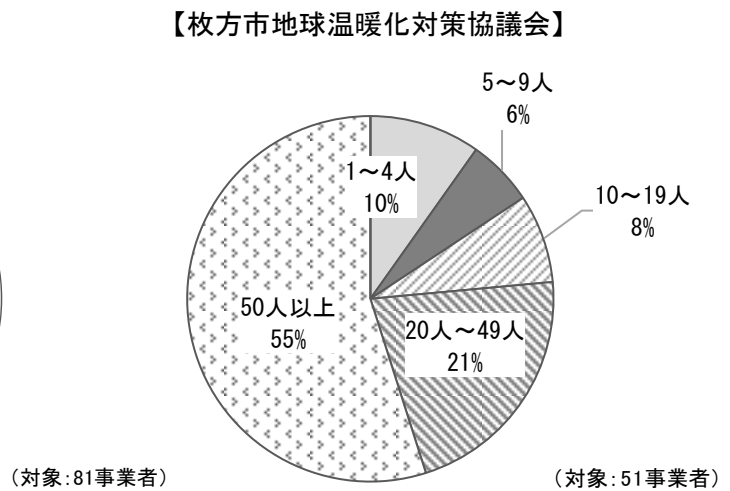
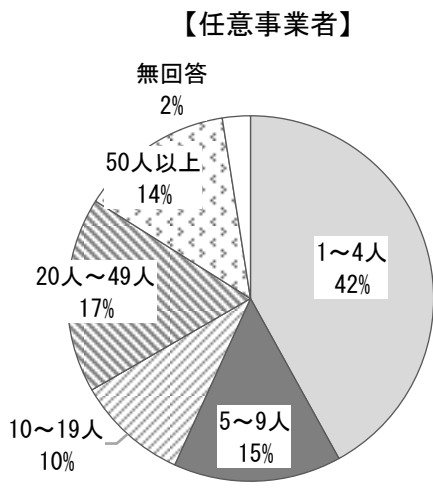
#### ■事業所形態（問2）



■事業所機能（問3）



■従業員規模（問4）



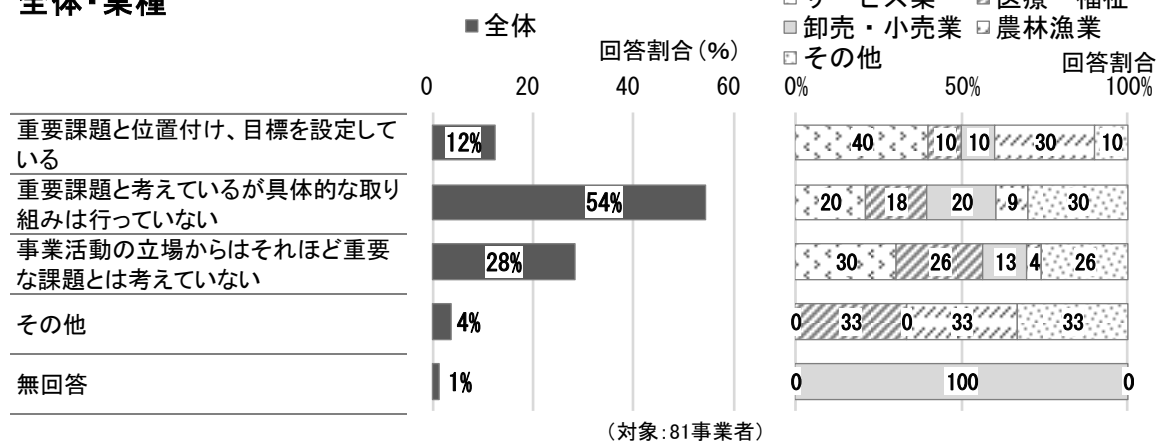
## 5.2 地球温暖化防止の取り組みをどのように位置づけているか（問5）

### 【任意事業者】

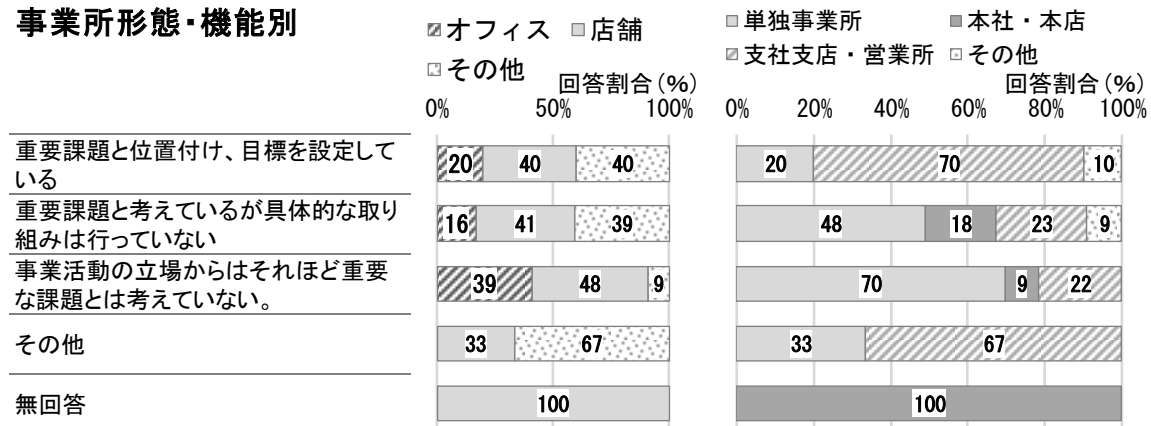
地球温暖化防止の取り組みについて、無作為抽出した事業者では、「重要課題と位置付け、目標を設定している」と回答した事業者は12%となり、「重要課題と考えているが具体的な取り組みは行っていない」と回答した事業者が過半数、「事業活動の立場からはそれほど重要な課題とは考えていない」と答えた事業者が3割となった。

無作為抽出した事業者の結果を業種別でみると、「農林水産業」で、「重要課題と位置付け、目標を設定している」割合が比較的高い傾向にあった。事業所形態では「オフィス」において「事業活動の立場からはそれほど重要な課題とは考えていない」とする傾向が見られ、事業所機能別では、「支社支店・営業所」の方が「重要課題と位置付け、目標を設定している」とする傾向が多く見られた。

### 全体・業種



### 事業所形態・機能別





### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

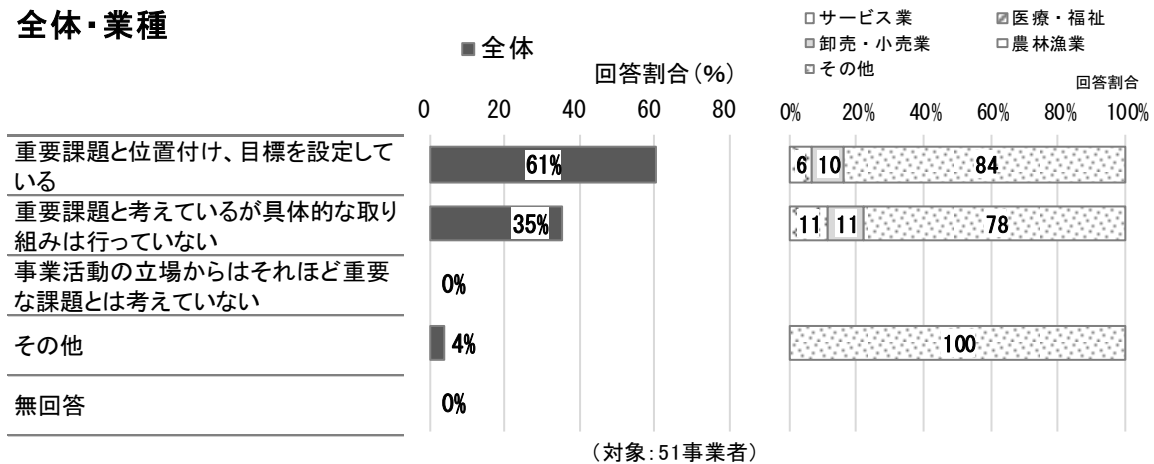
枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者では、地球温暖化防止の取り組みについて、「重要課題と位置付け、目標を設定している」と回答した事業者は61%となり、「重要課題と考えているが具体的な取り組みは行っていない」と回答した事業者が35%、「事業活動の立場からはそれほど重要な課題とは考えていない」と回答した事業者はいなかった。

これにより、枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者の方が、地球温暖化対策について意識が高く、すでに対策を講じていることがわかる。

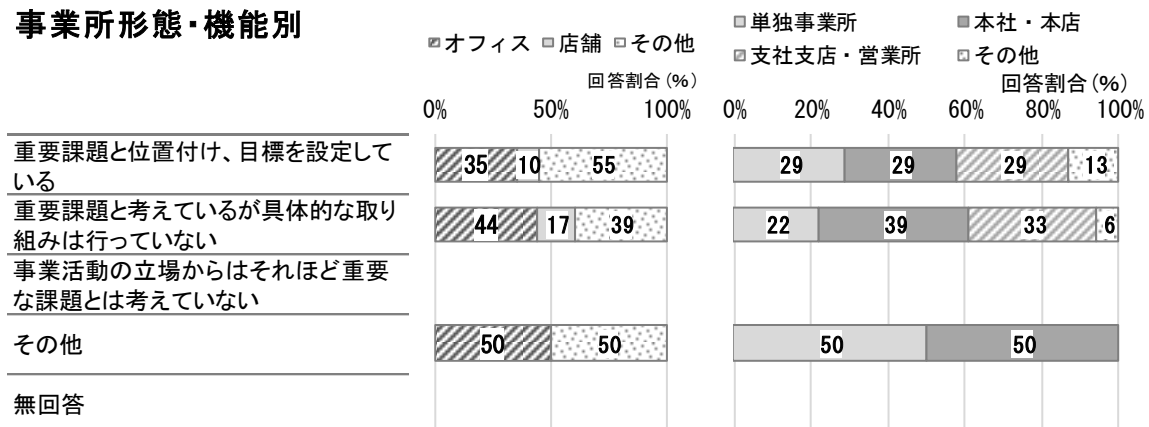
枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者の結果を業種別でみると、「その他」で、「重要課題と位置付け、目標を設定している」割合が比較的高かった。その他の事業所形態・機能、従業員規模等で有意な差は殆ど見られなかった。

前回調査からは「重要課題と位置付け、目標を設定している」と回答した事業者が15%、「事業活動の立場からはそれほど重要な課題とは考えていない」と回答した事業者が9%減少し、「重要課題と考えているが具体的な取り組みは行っていない」と回答した事業者が20%増加した。

#### 全体・業種



#### 事業所形態・機能別



## 【問5の自由回答の概要】

事業者が地球温暖化防止について、どのように位置づけているか聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

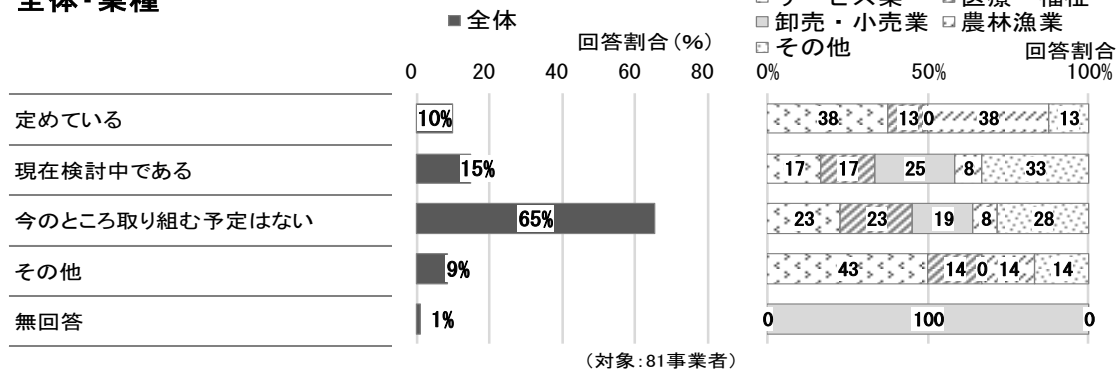
番号	内容
1	本社主導で紙の使用量、電力使用量等前月比、前年比でチェックしている
2	現業態での取り組み方がわからない
3	現在は特にとりくみはなし
4	数値としては定めていないが、努力している

### 5.3 温室効果ガス排出量の削減に向けて、削減目標や方針を定めているか（問6）

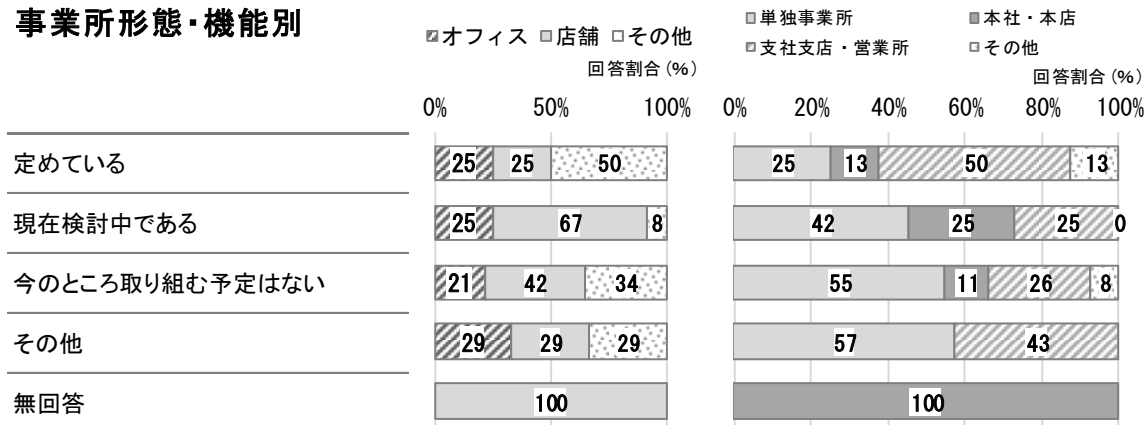
#### 【任意事業者】

無作為抽出した事業者について、温室効果ガス排出量の削減に向けて削減目標や方針について回答を求めた。「定めている」と回答した事業者は10%、「現在検討中である」が15%、「今のところ取り組む予定はない」としている事業者が多数の65%となった。業種では「農林漁業」で「定めている」割合が比較的高く、その他の事業所形態・機能、従業員規模等で有意な差は殆ど見られなかった。

#### 全体・業種



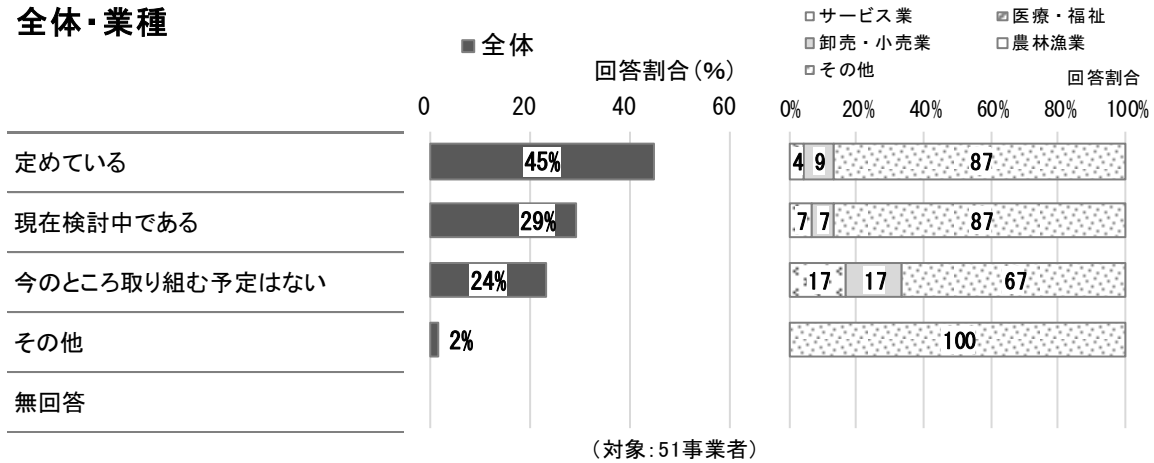
#### 事業所形態・機能別



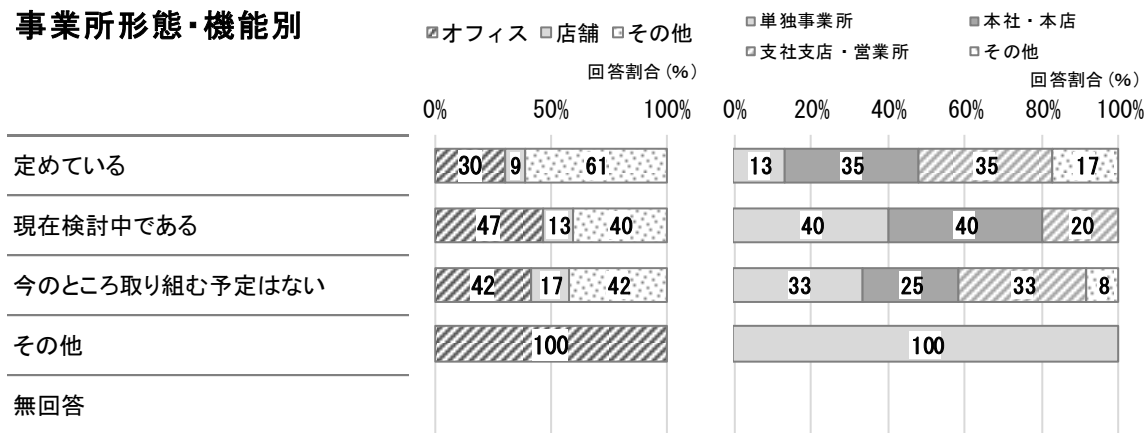
#### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者において、温室効果ガス排出量の削減に向けて、削減目標や方針を聞いたところ、目標を「定めている」と回答した事業者は45%、「現在検討中である」が29%、「今のところ取り組む予定はない」が24%となった。業種では「その他」で「その他」割合が比較的高かった。事業所形態・機能別では、「単独事業所」で目標を「定めている」と回答している事業者が少なくなる傾向にあった。

### 全体・業種



### 事業所形態・機能別



### 【課題・まとめ】

無作為抽出した事業者に対する課題は、地球温暖化対策に関する関心や意識が低い傾向にあり、そのため地球温暖化対策や目標設定を実施していない事業者が多い点である。なので、事業者にとっても、得するような省エネ施策について広く周知を強化する必要があると思われる。特に、今回調査した事業所は、事業所機能が「単独事業所（49%）」または従業員数が「1～4人（全体の42%）」となっており、小規模事業所が多い傾向にある。周知すべき省エネ対策はハード対策（設備更新等）だけではなく、詳しい省エネ対策をまとめたリーフレット等で周知するといったソフト対策に力を入れる必要があると思われる。

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者についても、非常に意識が高いものの、事業所形態・機能別が「単独事業所」である事業者は、省エネ目標の設定が難しいと思われるため、無作為抽出した事業所と同様にソフト対策の細かなアドバイスや省エネ診断などの案内を積極的に周知することが効果的だと考えられる。

## 【問6の自由回答の概要】

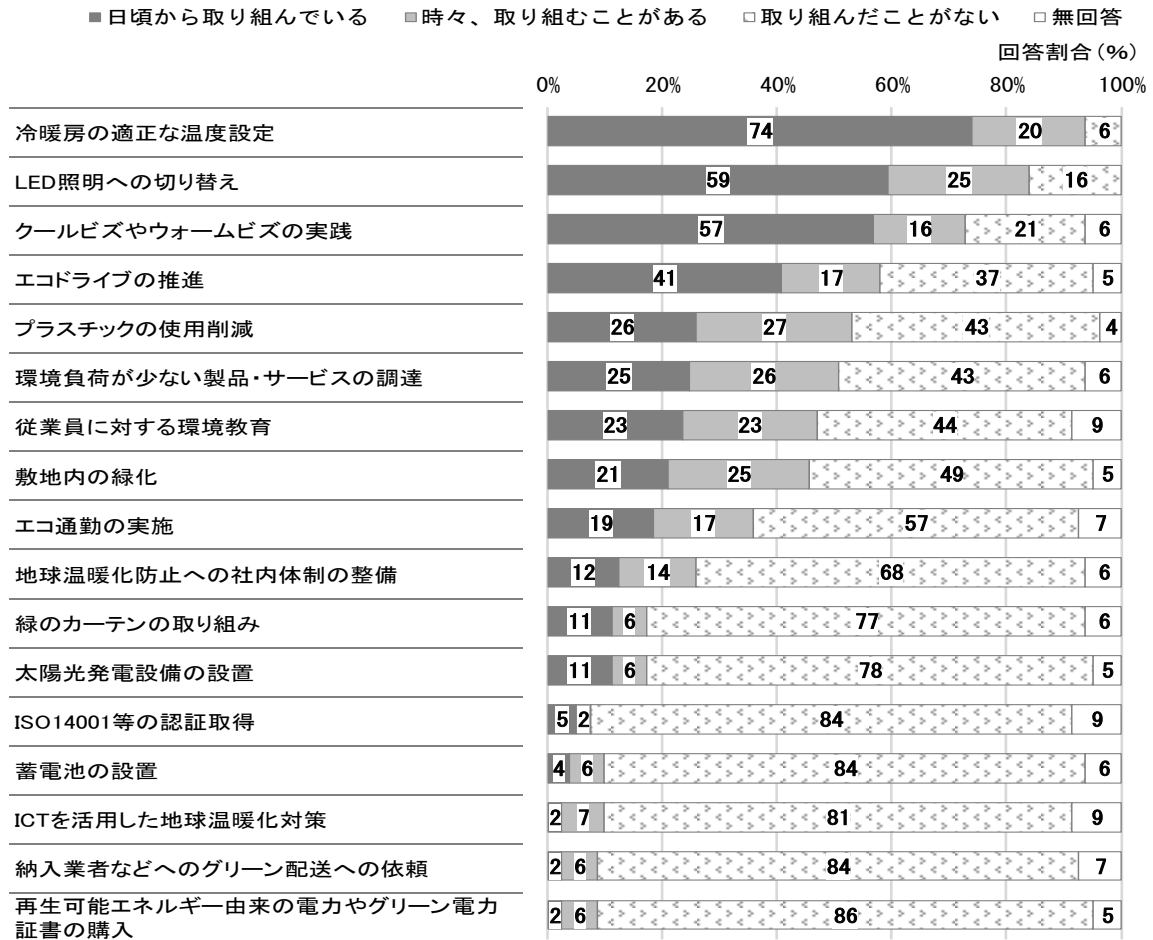
削減目標や方針を決めているかについて聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

番号	内容
1	本社主導で紙の使用量、電力使用量等前月比、前年比でチェックしている
2	現業態での取り組み方がわからない
3	数値としては定めていないが、努力している

#### 5.4 事業所において取り組んでいる地球温暖化防止の取り組み（問7）

##### 【任意事業者】

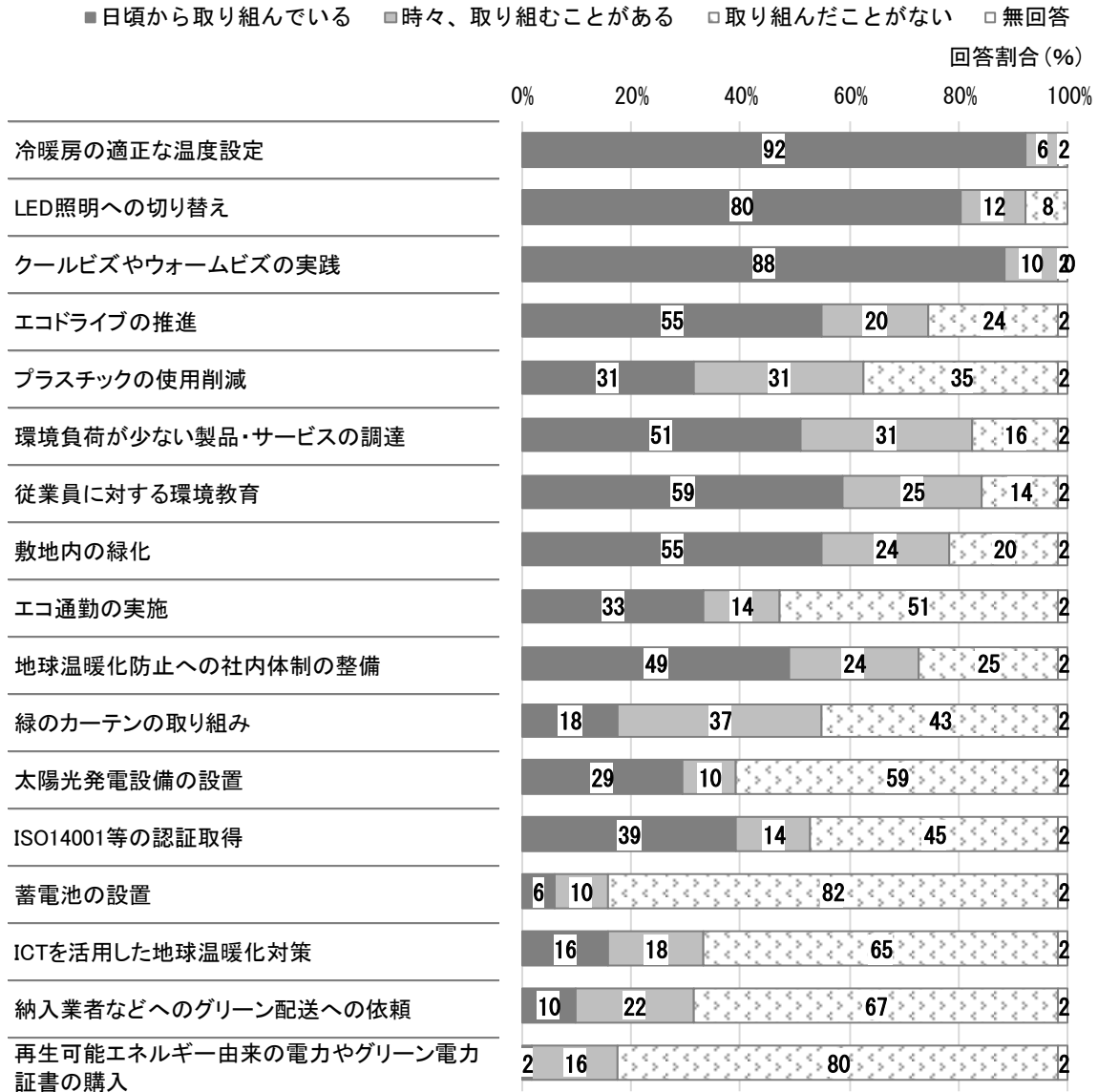
無作為抽出した事業者の地球温暖化防止の取り組みとして、「日ごろから取り組んでいる」との回答がもっと多かったのは「冷暖房の適正な温度設定」で74%、次いで「LED照明への切り替え」が59%、「クールビズやウォームビズの実践」が57%で、残りの項目は半数に満たない状況であった。



(対象：81事業者)

##### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者において、地球温暖化防止の取り組みとして、「日ごろから取り組んでいる」と回答されている取り組みの中で、半数以上の割合で実施されていたものは、多かった順に「冷暖房の適正な温度設定」、「クールビズやウォームビズの実践」、「LED照明への切り替え」、「従業員に対する環境教育」、「エコドライブの推進」、「敷地内の緑化」、「環境負荷が少ない製品・サービスの調達」となり、7項目もの取り組みについて実施されていた。取り組まれている割合が極端に少なかったものは、「蓄電池の設置」及び「再生可能エネルギー由来の電力やグリーン電力証書の購入」であった。



(対象：51事業者)

### 【課題・まとめ】

無作為抽出した事業者に対する課題は、温度設定やLEDへの更新等の代表的な取り組みは実施されているため、より多くの省エネ対策の方法や効果の周知が必要だと考えられる。

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者については、非常に多くの取り組みを行っているため、これに加えて「蓄電池の設置」及び「再生可能エネルギー由来の電力やグリーン電力証書の購入」について情報を提供する必要がある。

また、特に積極的に省エネ対策を行っている事業者を市で取り上げて、その具体的な取り組みを紹介させてもらう、省エネ対策の平準化等も市内事業所全体に効果が期待できる。

## 【問7の自由回答の概要】

その他の地球温暖化防止の取り組みについて聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

番号	内容
1	農薬、化学肥料、除草剤等を買わない。使わない。
2	業態上、資源ゴミの分別（かなりしっかりやっってるつもりだが・・・）にはしっかり取り組んでるつもりである。他の温暖化防止の取り組み方が思いつかない。



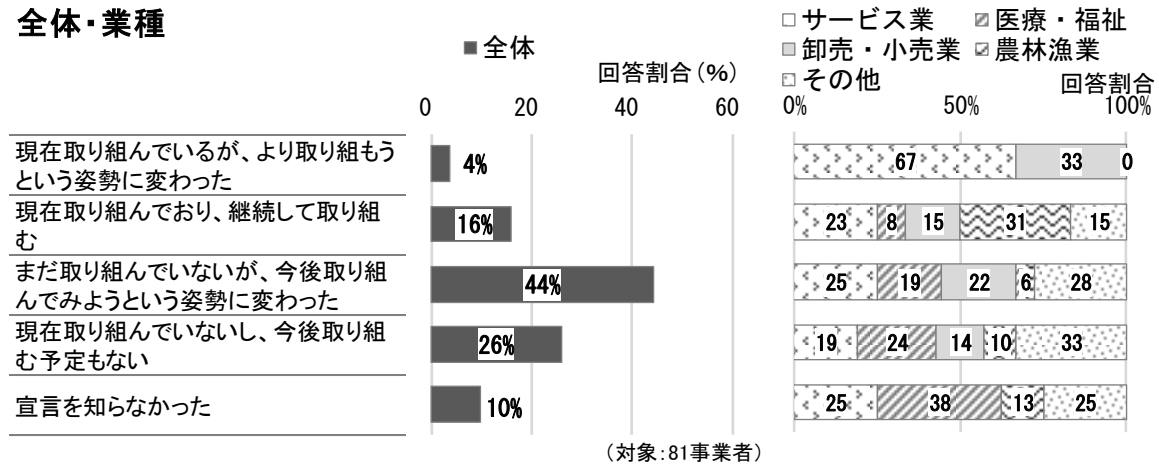
### 5.5 国の「温室効果ガス実質的排出量ゼロ」宣言による取り組み姿勢の変化（問8）

#### 【任意事業者】

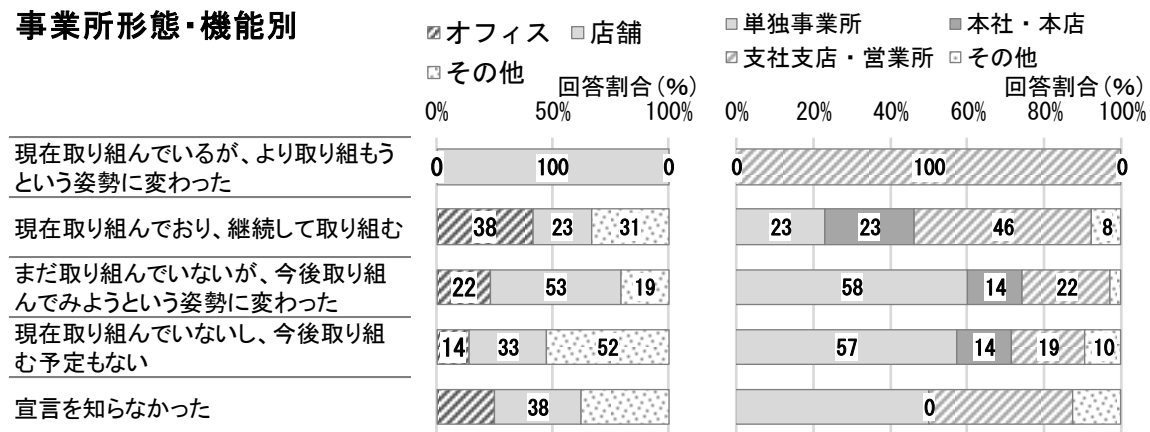
無作為抽出した事業者については、2020年に国により「2050年までに二酸化炭素を含む温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを目指す」と宣言されたことによる地球温暖化対策への取り組み姿勢の変化については、44%が「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」とされた一方で、26%は「現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」としており、10%は「宣言をしらなかった」と回答された。

業種でみると、「農林水産業」において、「現在取り組んでおり、継続して取り組む」としている事業者が他業種より多く、「現在取り組んでいるが、より取り組もうという姿勢に変わった」とする事業者が、事業所形態では「店舗」において、事業所機能としては「支社支店・営業所」において比較的多い傾向が見られた。

#### 全体・業種



#### 事業所形態・機能別



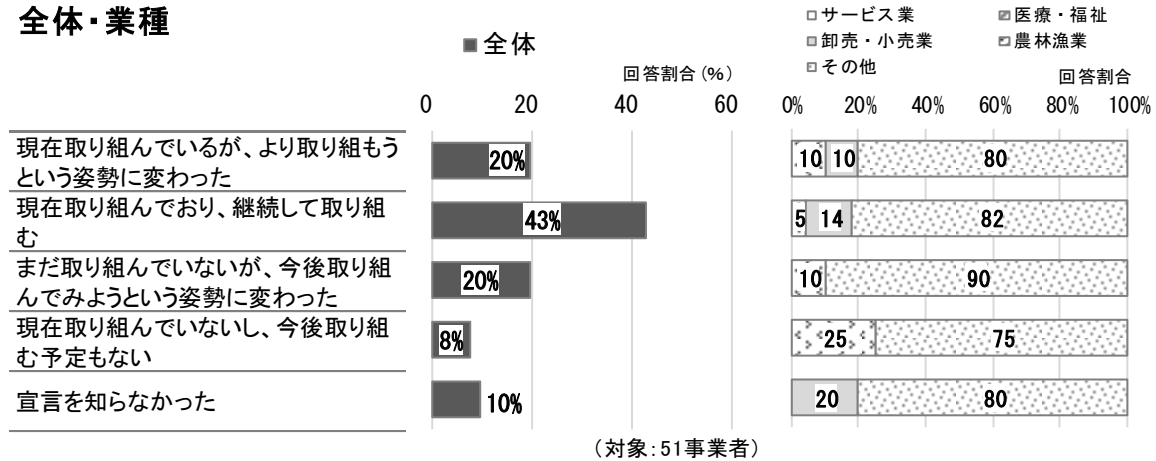
#### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者において、「2050年までに二酸化炭素を含む温室効果ガスの実質的な排出量ゼロを目指す」宣言について聞いたところ、「現在取り組んでいるが、より取り組もうという姿勢に変わった」が20%、「現在取り組んでおり、継続して取り組む」が43%と、6割以上の事業者ですでに取り組んでいた。「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」が20%となった。一方で、8%は「現在取り組

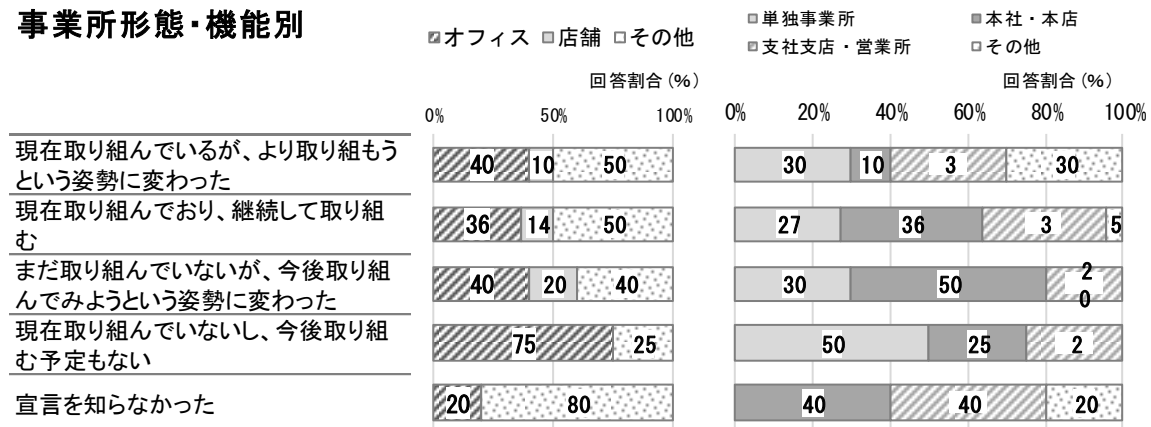
んでいないし、今後取り組む予定もない」としており、10%は「宣言をしらなかった」と回答している。

業種でみると、「サービス業」及び「卸売・小売業」において、「現在取り組んでいるが、より取り組もうという姿勢に変わった」としている事業者が多かった。事業所形態・機能別においては、「オフィス」または「単独事業所」において「現在取り組んでいないし、今後取り組む予定もない」と回答している事業者が多い。

### 全体・業種



### 事業所形態・機能別



### 【課題・まとめ】

無作為抽出した事業者に対しては、「まだ取り組んでいないが、今後取り組んでみようという姿勢に変わった」の回答が最も多いため、これを後押しするため省エネ対策を具体的に提示してフォローしていく必要がある。事業所形態・機能別にみると、「単独事業所」で「今後も取り組む予定もない」と最も多く回答しているため、ソフト対策の有用性を積極的に周知していく必要がある。

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者についても、「オフィス」または「単独事業所」で「今後も取り組む予定もない」と最も多く回答しているため、ソフト対策の有用性を積極的に周知していく必要がある。

## 5.6 自動車の保有状況について

### (1) 事業所での自動車の保有状況（問9）

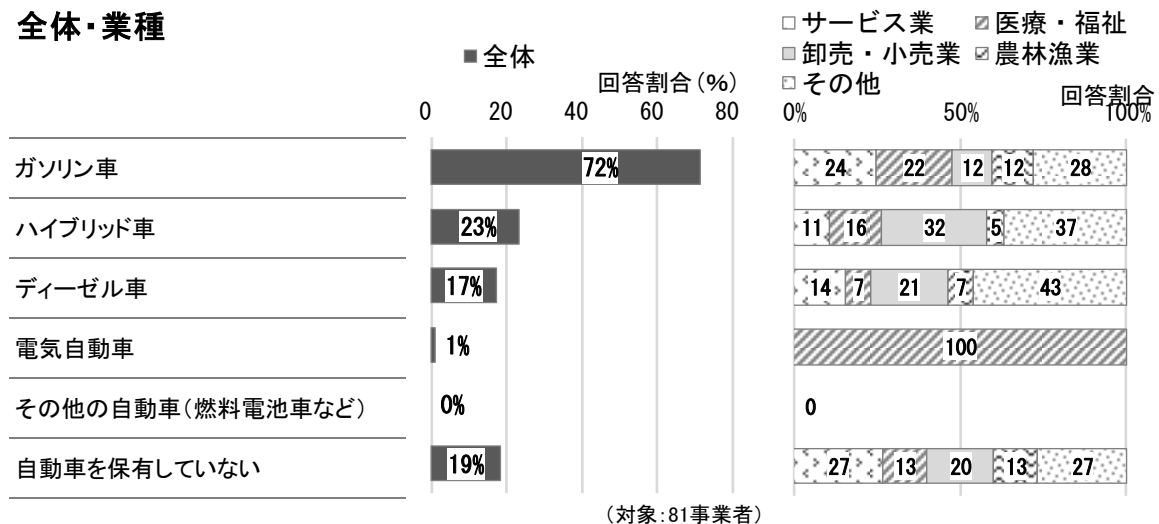
#### 【任意事業者】

事業所で保有しているすべての自動車でも多かった「ガソリン車」の保有率は72%、次いで「ハイブリッド車」23%、「ディーゼル車」17%で、19%が「自動車を保有していない」状況であった。電気自動車を保有していたのは1事業所のみで、必然的にその事業所が属する、医療・福祉で比率が多い結果となったが、基本的に業種や事業所の形態・機能による有意な差は殆ど見られなかった。

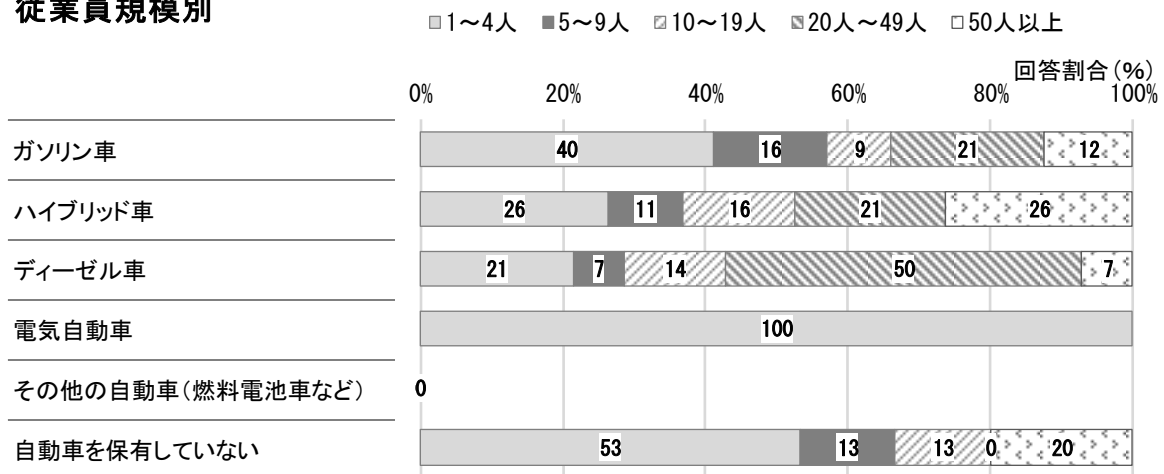
従業員規模別では、「20人～49人」の事業所で、「ディーゼル車」を保有している事業所が全体で14事業者中7事業者となっており、比較的多い傾向となっていた。

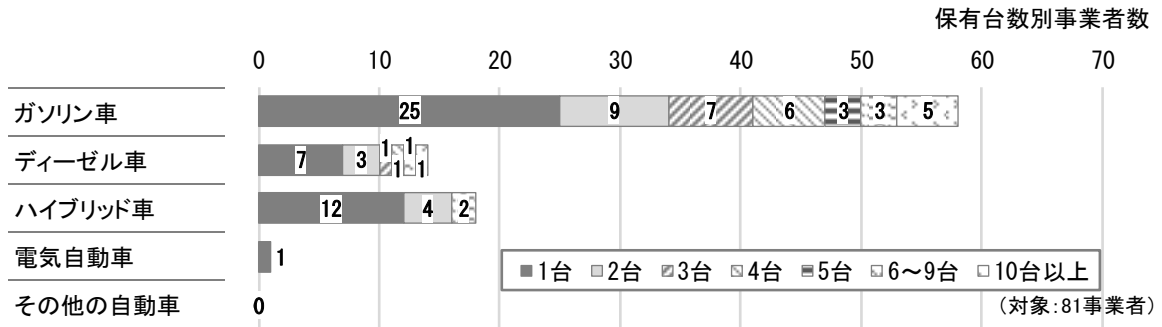
保有台数としては、「ガソリン車」は半数以上、「ディーゼル車」は半数、「ハイブリッド車」は3分の1が2台以上の保有であった。10台以上保有の事業者は、「ガソリン車」で、13～15台が1事業者ずつと29台が1事業者、「ディーゼル車」で16台が1事業者であった。

#### 全体・業種



#### 従業員規模別

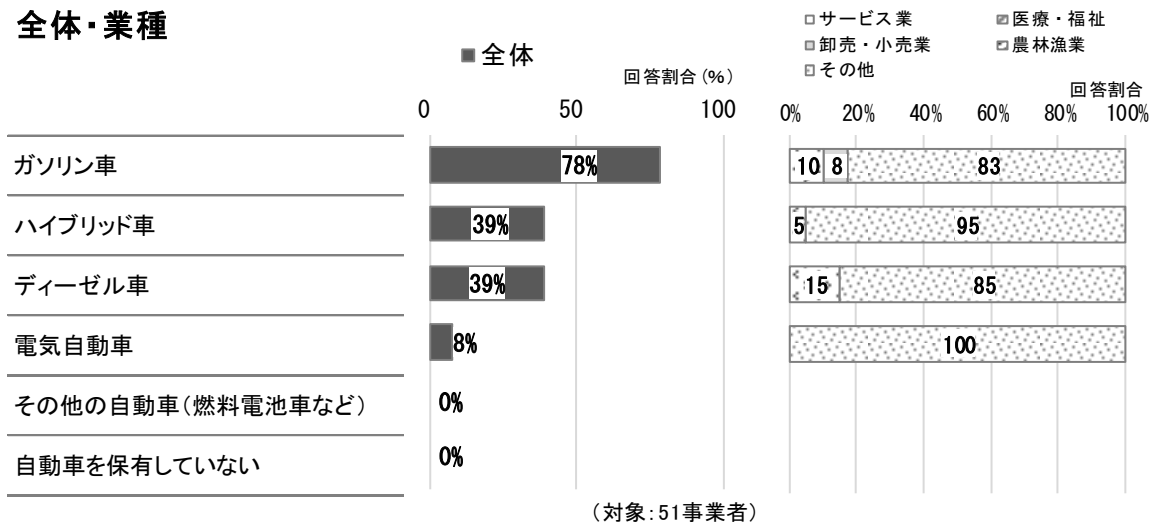




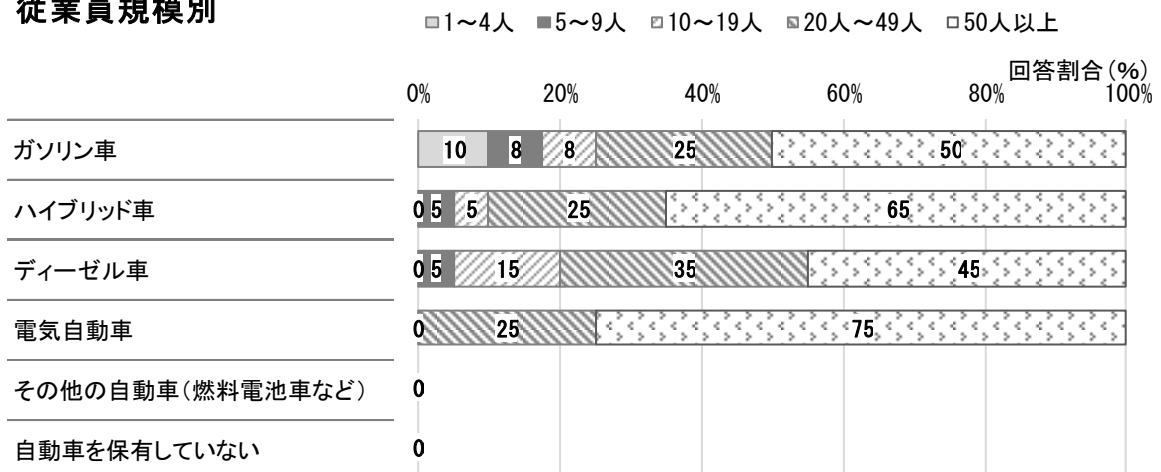
### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

事業所で保有しているすべての自動車でもっとも多かったものは、「ガソリン車」の保有率は78%、次いで「ハイブリッド車」39%、「ディーゼル車」39%で、8%が「電気自動車」と回答があった。従業員規模別では、「20人～49人」の事業所で、「ディーゼル車」を保有している事業所が全体で14事業者中7事業者となっており、比較的多い傾向となっていた。

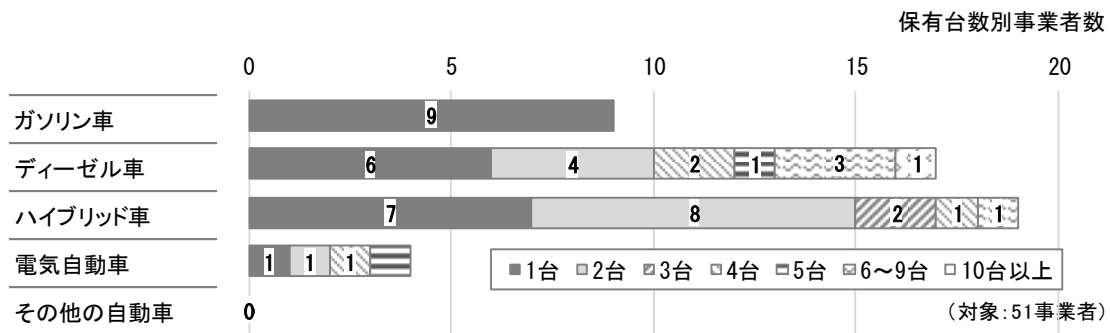
### 全体・業種



### 従業員規模別



保有台数としては、「ガソリン車」及び「ディーゼル車」は1台保有が多く、「ハイブリッド車」は2台の保有が最多となった。



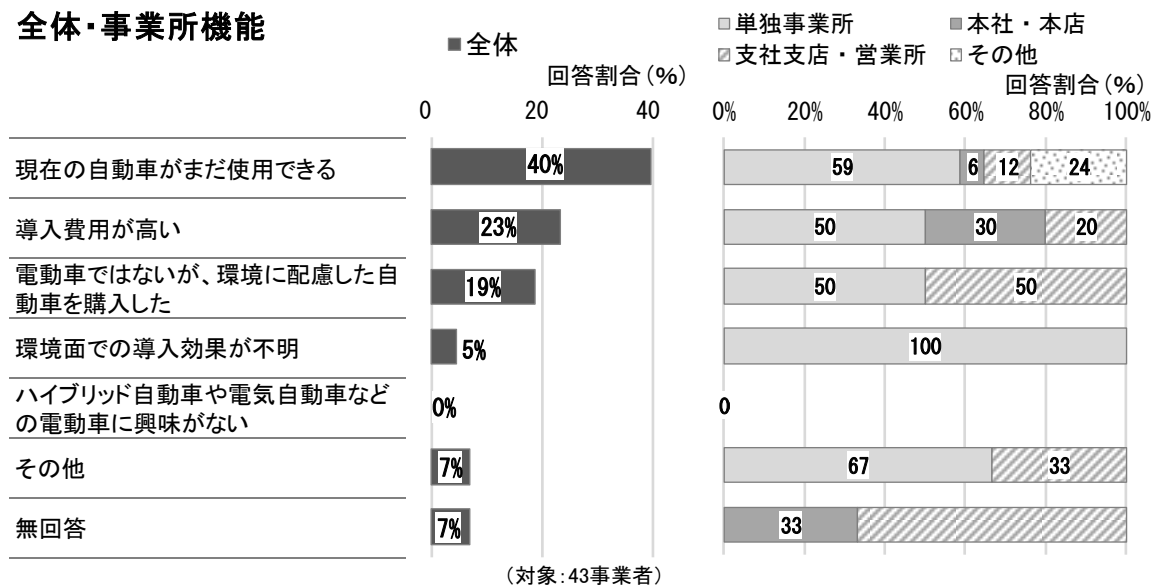
(2) 電動車を所有していない最大の理由（問10）

【任意事業者】

自動車の保有状況として「ガソリン車」、「ディーゼル車」のみであった事業者における、電気自動車を所有していない最大の理由としては、「現在の自動車がまだ使用できる」が最も多く40%で、次いで「導入費用が高い」が23%、「電動車ではないが、環境に配慮した自動車を購入した」が19%であった。

事業者の業種や事業形態による有意な差は見られなかったが、事業所機能として、「本社・本店」において、「導入費用が高い」ためとする傾向が比較的高かった。

全体・事業所機能

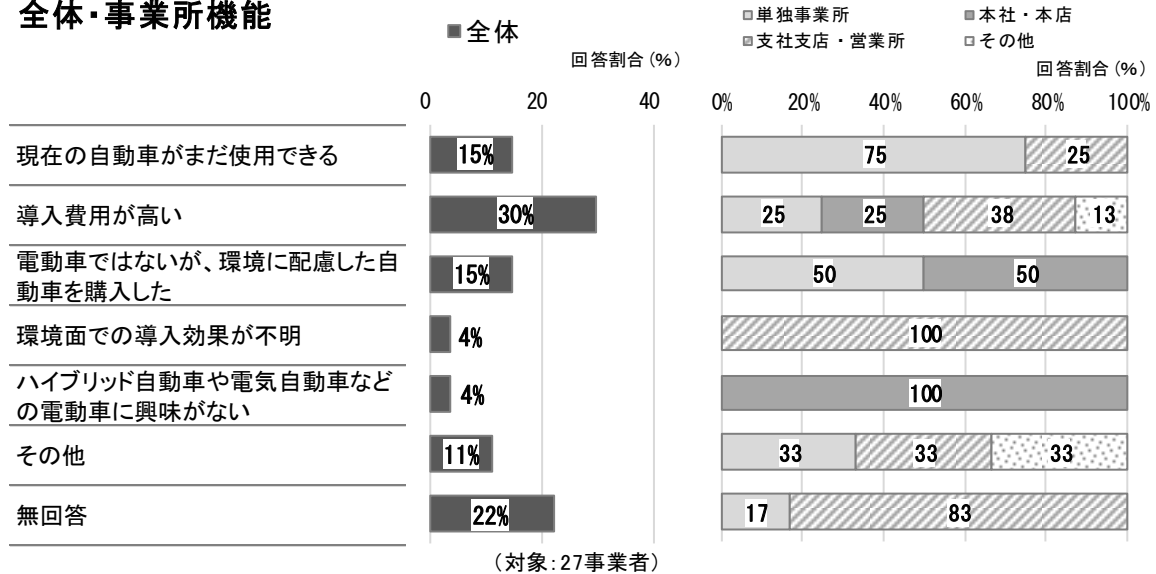


【枚方市地球温暖化対策協議会】

自動車の保有状況として「ガソリン車」、「ディーゼル車」のみであった事業者における、電気自動車を所有していない最大の理由としては、「導入費用が高い（全体の30%）」、次いで「現在の自動車がまだ使用できる（15%）」、「電動車ではないが、環境に配慮した自動車を購入した（15%）」であった。

事業者の業種や事業所形態による有意な差は見られなかったが、事業所機能として、「本社・本店」において、「導入費用が高い」ためとする傾向が比較的高かった。

全体・事業所機能



【課題・まとめ】

保有自動車の種類について聞いたところ、無作為抽出した事業者及び枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者で、最も多くの事業者が保有している自動車は「ガソリン車」であった。

次に、「ガソリン車」及び「ディーゼル車」のみを保有する事業者が、電動車を保有しない理由についても聞いた。無作為抽出した事業者に関しては、「現在の自動車がまだ使用できる」の回答が最も多く、次に「導入費用が高い」の回答が多かった。枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者については、「導入費用が高い」がまたは「単独事業所」で「今後も取り組む予定もない」と最も多かった。このため、電動車についての補助や電動車の利点等の情報提供について強化する必要がある。

## 【問10の自由回答の概要】

電動車を保有しない理由について聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

番号	内容
1	軽トラックに電気自動車はない。
2	ペースメーカーをしている人間がいるので導入できない
3	本社の意向のため事業所では不明

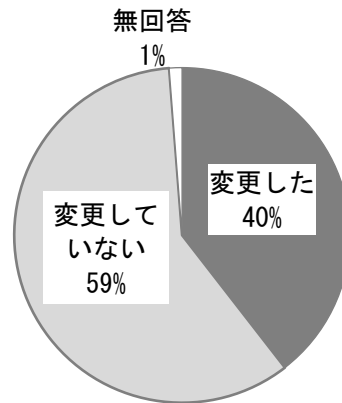
## 5.7 電力小売全面自由化を受けての自宅の電力会社の変更について

### (1) 電力小売全面自由化を受け自宅の電力会社を変更したか（問11）

#### 【任意事業者】

無作為抽出した事業者において、自宅の電力会社について「変更した」のは、有効な回答者数のうち4割で、6割は「変更していない」状況であった。

この回答は、業種や事業所の形態・機能などの属性による差はあまり見られなかった。

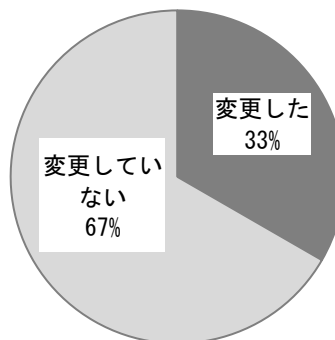


（対象：81事業者）

#### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者において、自宅の電力会社について「変更した」のは、有効な回答者数のうち3割で、7割は「変更していない」状況であった。

この回答は、業種や事業所の形態・機能などの属性による差はあまり見られなかった。



（対象：51事業者）

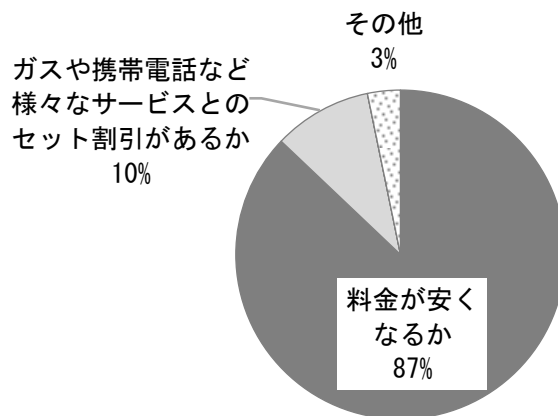


(2) 電力会社を選ぶ際に最も重要視した点（問12）

【任意事業者】

電力小売全面自由化を受け事業所の電力会社を「変更した」と回答した人において、電力会社選択時に最も重視した点は、「料金が安くなるか」が最も多く87%、次いで「ガスや携帯電話など様々なサービスとのセット割引があるか」が10%であった。

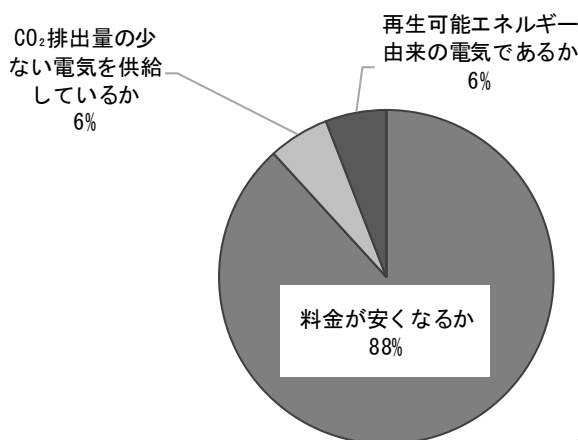
「その他」は1事業者のみで、他の選択肢（「CO<sub>2</sub>排出量の少ない電気を供給しているか」、「再生可能エネルギー由来の電気であるか」、「地産地消（地域で生産された電気をその地域で消費）をしているか」）を理由とした事業者はなかった。



(対象：31事業者)

【枚方市地球温暖化対策協議会】

電力小売全面自由化を受け事業所の電力会社を「変更した」と回答した人において、電力会社選択時に最も重視した点は、「料金が安くなるか」が最も多く88%、次いで「CO<sub>2</sub>排出量の少ない電気を供給しているか」、「再生可能エネルギー由来の電気であるか」がそれぞれ6%であった。



(対象：17事業者)

**【課題・まとめ】**

電力会社を変えた事業者の中で、電力会社を選ぶ際に重視した事項については、無作為抽出した事業者では、回答の多かった順に「料金が安くなるか」、「ガスや携帯電話などの様々なサービスとのセット割引があるか」となった。枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者では、回答の多かった順に「料金が安くなるか」、「CO<sub>2</sub>排出量の少ない電気を供給しているか」、「再生可能エネルギー由来の電気であるか」となった。このため、選定において意識の差が出る結果となった。このため再生可能エネルギー由来の電力会社を選ぶメリットを広く周知していく必要がある。

**【問12の自由回答の概要】**

電力会社の選定基準について聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

番号	内容
1	仕事関連

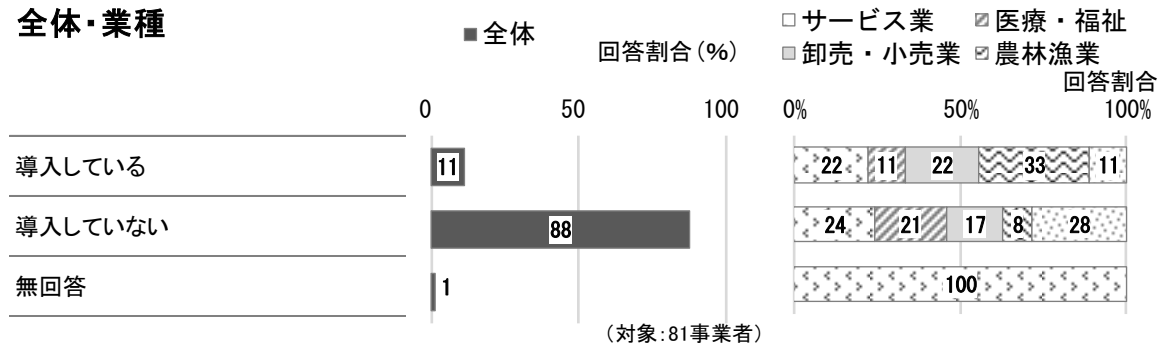
## 5.8 再生可能エネルギーを利用した設備、機器の導入について

### (1) 導入状況（問13）

#### 【任意事業者】

再生可能エネルギーを利用した設備、機器を導入しているか否かについては、全体で「導入している」が11%で、88%が「導入していない」状況であった。

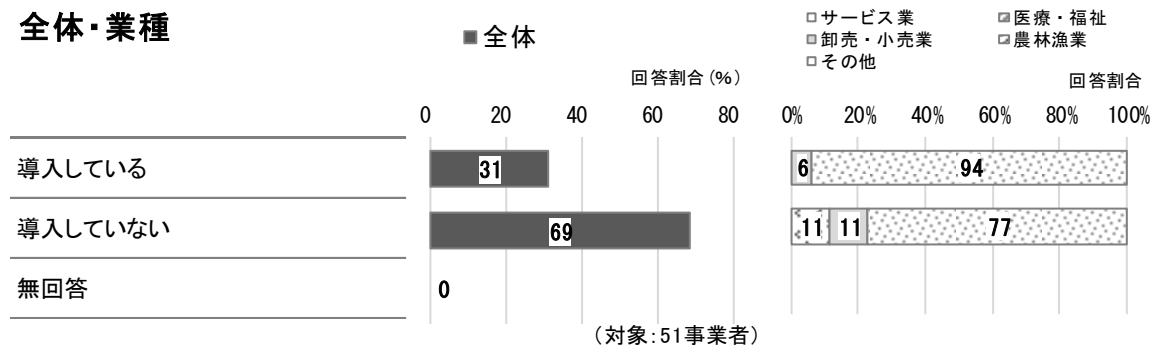
全体数が少ないながら、「農林漁業」において、「導入している」割合が比較的多い傾向がみられた。



#### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

再生可能エネルギーを利用した設備、機器を導入しているか否かについては、全体で「導入している」が31%で、69%が「導入していない」状況であった。前回の調査結果と大きな差はなかった。

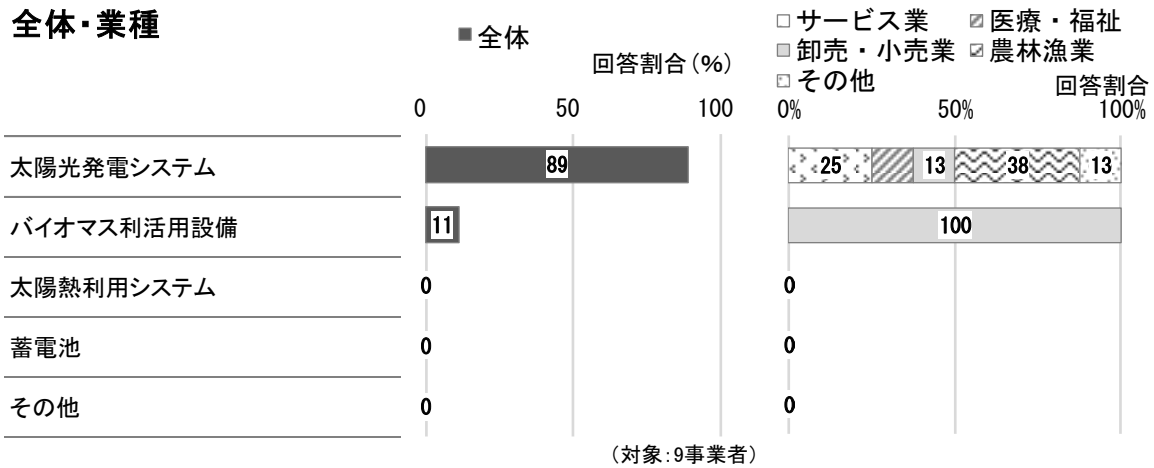
全体数が少ないながら、「その他」において、「導入している」割合が比較的多い傾向がみられた。



(2) 導入設備等の種別（問14）

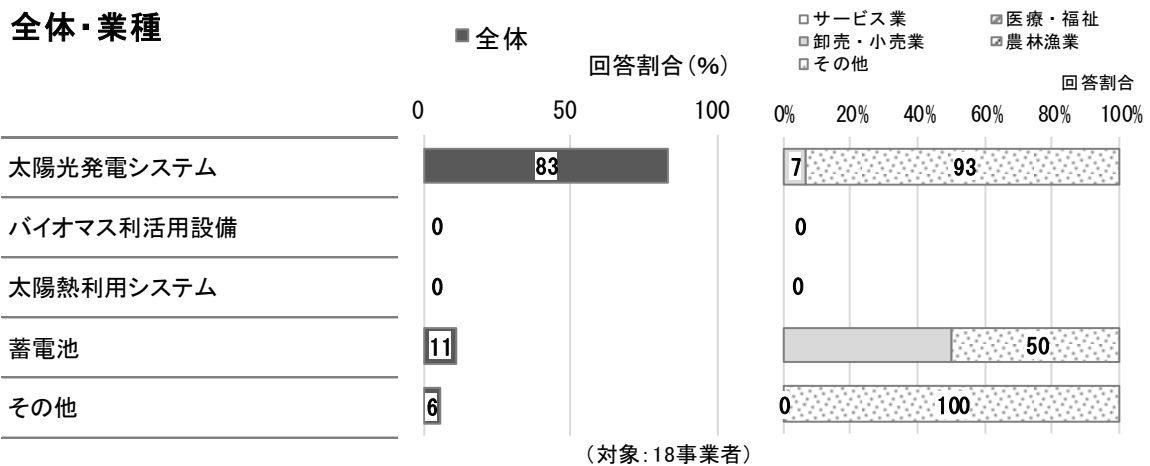
【任意事業者】

再生可能エネルギーを利用した設備、機器を導入しているとした9事業所のうち、8事業所の89%が「太陽光発電システム」を導入しており、「卸売・小売業」の1事業所において「バイオマス利活用設備」が導入されていた。なお、その他の設備等（「太陽熱利用システム」、「蓄電池」等）を導入している事業者はいなかった。



【枚方市地球温暖化対策協議会】

再生可能エネルギーを利用した設備、機器を導入しているとした18事業所のうち、15事業所の83%が「太陽光発電システム」を導入しており、「卸売・小売業」と「その他」の2事業所において「蓄電池」が導入されていた。なお、その他の設備等では「ヒートポンプによる熱利用」を導入している事業者があった。



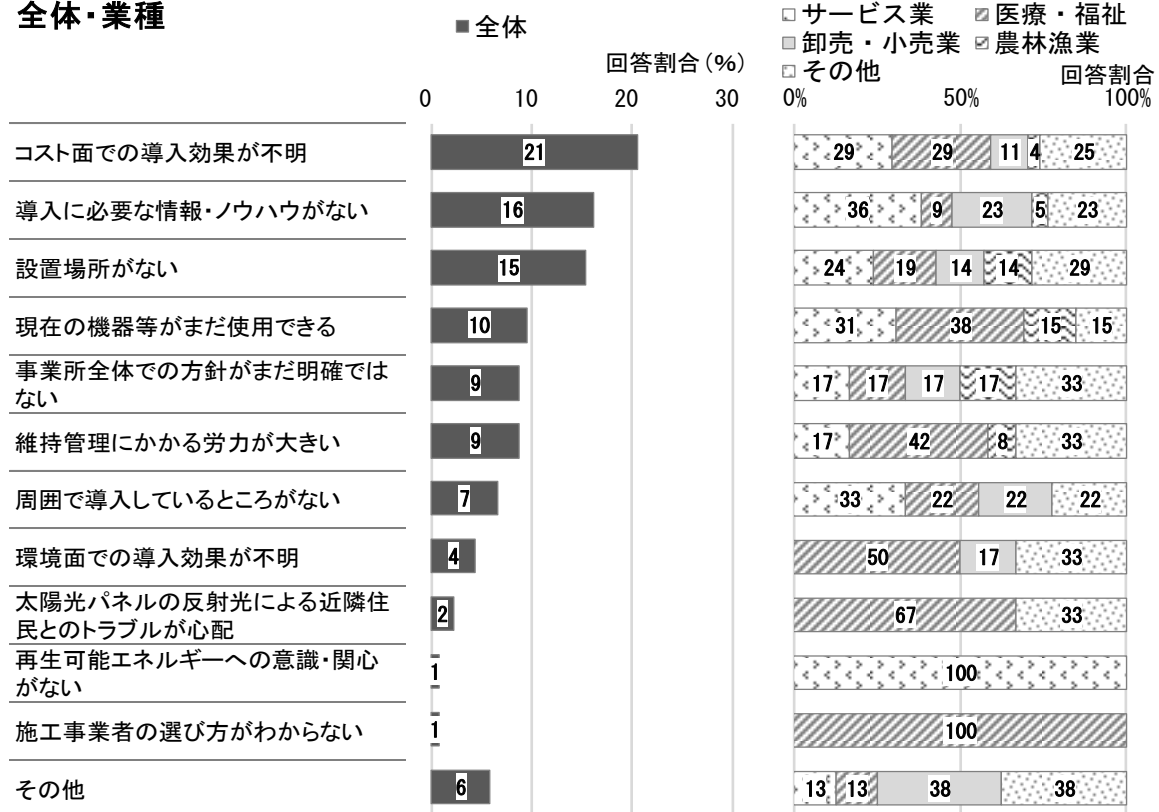
(3) 導入していない場合の理由（問15）

【任意事業者】

再生可能エネルギー設備、機器を導入していない事業者における導入していない理由としては「コスト面での導入効果が不明」であることが最も多く21%、次いで「導入に必要な情報・ノウハウがない」が16%、「設置場所がない」が15%であった。

各理由を挙げている事業者数が少ないため、業種や事業所の形態等の属性による有意な差はほとんど見られなかった。

全体・業種

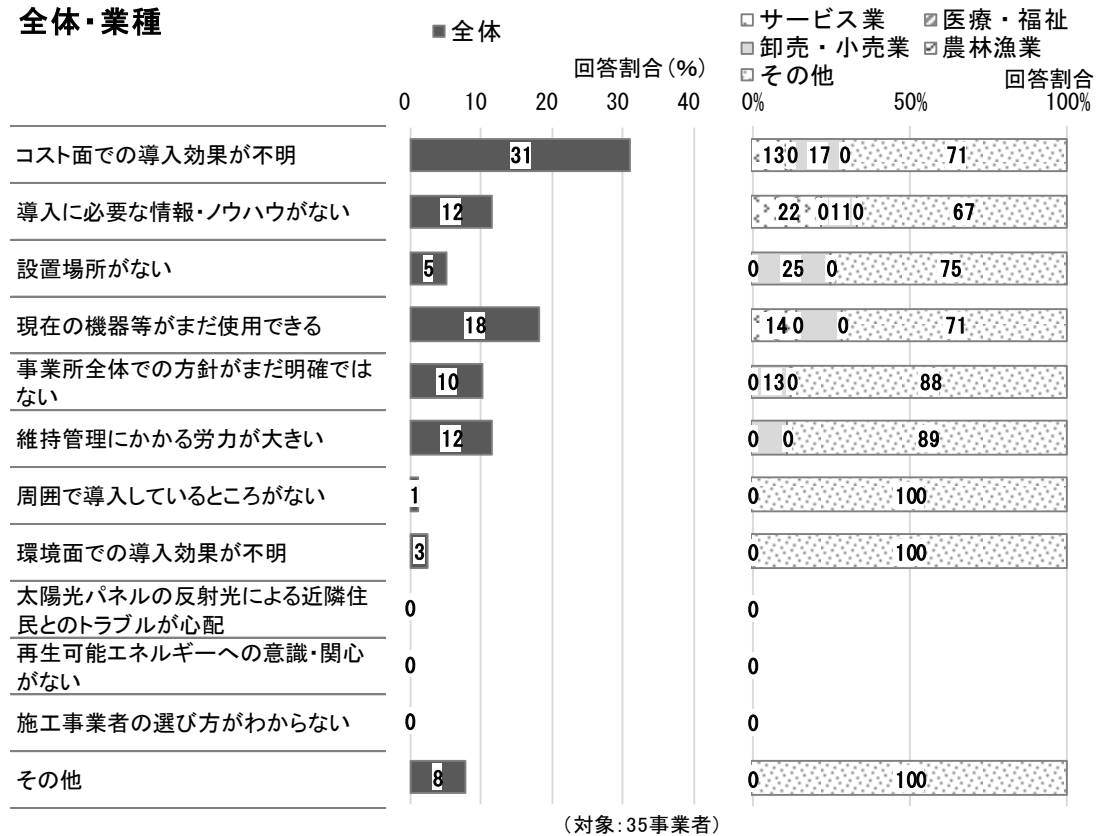


(対象:71事業者)

【枚方市地球温暖化対策協議会】

再生可能エネルギー設備、機器を導入していない事業者における導入していない理由としては「コスト面での導入効果が不明」であることが最も多く31%、次いで「現在の機器等がまだ使用できる」が18%、「導入に必要な情報・ノウハウがない」及び「維持管理にかかる労力が大きい」が12%であった。

全体・業種



【課題・まとめ】

再生可能エネルギー等の設備を導入する企業の80%が太陽光発電システムを使用している結果となった。業種に関わらず、導入し易いためだと考えられる。一方で、導入していない事業者の多くが、「コスト面での導入効果が不明」と答えているため、導入事例と費用対効果等の説明資料を提供すれば、より導入し易くなると思われる。

【問12の自由回答の概要】

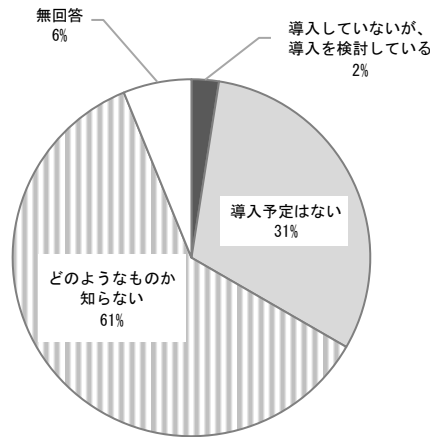
太陽光発電システムを導入していない理由について聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

番号	内容
1	境内地にガレージの屋根に太陽光パネルを…と業者2社にみていただきましたが、置く場所が狭くなる等の理由で断念しました。
2	当労組の取り組みに入っていない
3	テナントの為にディベロッパーに任せています。
4	賃貸の為
5	賃貸物件のため選択肢がない
6	小規模すぎて考える事なし
7	となりに大きな病院が太陽光発電効率が悪い
8	大阪府管理施設のため当社所有の施設がないため

### 5.9 「ZEB」、「BEMS」、「FEMS」の導入状況（問16）

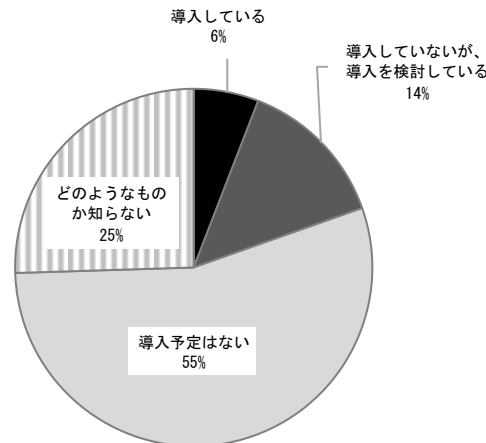
#### 【任意事業者】

「ZEB」や「BEMS」、「FEMS」について、「導入している」事業者はおらず、「導入していないが、導入を検討している」事業者が2%で、31%が「導入予定はない」とし、半数以上の61%の事業者が「どのようなものか知らない」としていた。属性による差も殆ど見られなかった。



#### 【枚方市地球温暖化対策協議会】

「ZEB」や「BEMS」、「FEMS」について、「導入している」事業者は6%おり、「導入していないが、導入を検討している」事業者が14%いた。55%が「導入予定はない」とし、25%の事業者が「どのようなものか知らない」としていた。属性による差も殆ど見られなかった。



#### 【課題・まとめ】

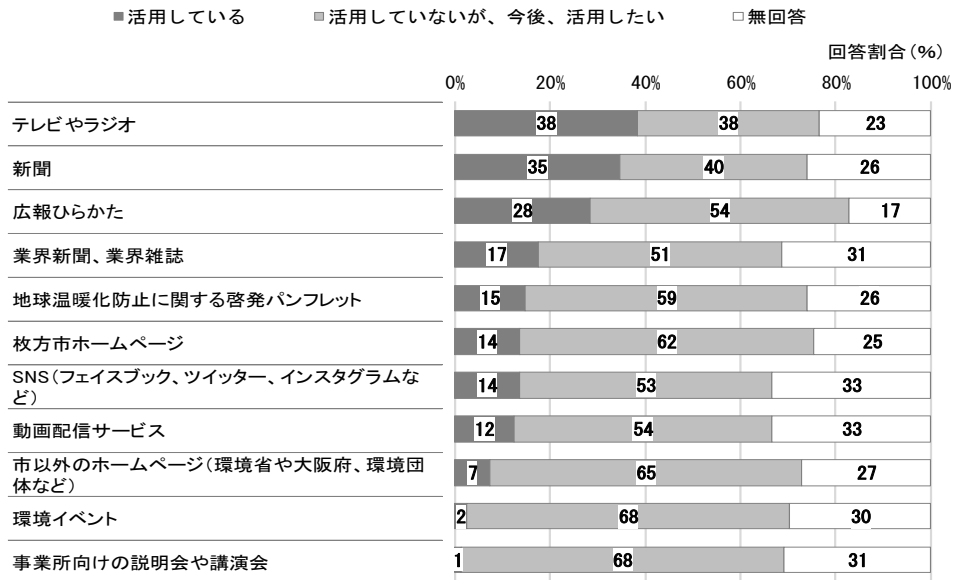
無作為抽出した事業者については、「どのようなものか知らない」が半数以上を占めており、「ZEB」等に関して「どのようなものであるか」、「費用対効果」についての情報をHP等で情報を広く発信することが重要である。

枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者については、「導入していないが、導入を検討している」や「導入予定はない」としている事業者に向けて、前向きに導入が検討されるように、補助金を使った事業事例集等の情報提供を検討する必要がある。

5.10 「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための手法（問17）

【任意事業者】

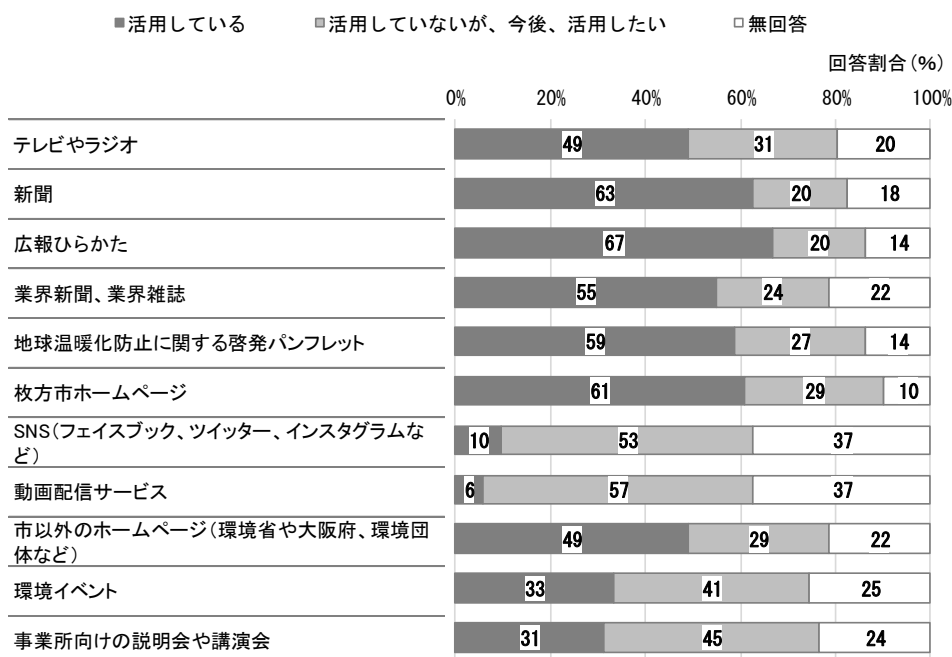
「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための方法について回答を得た。「活用している」割合が最も高かったのは「テレビやラジオ」で38%、次いで「新聞」が35%、「広報ひらかた」が28%であった。「活用している」と「活用していないが、今後、活用したい」を合わせると、いずれの手段においても、概ね70~80%となっていた。



(対象：81事業者)

【枚方市地球温暖化対策協議会】

「地球温暖化対策」に関する情報を取得するための方法について回答を得た。「活用している」割合が最も高かったのは「広報ひらかた」で67%、次いで「新聞」が63%、「枚方市ホームページ」が61%であった。最も「活用している」が低かったものは、「SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなど）」及び「動画配信サービス」であった。



(対象：51事業者)



【課題・まとめ】

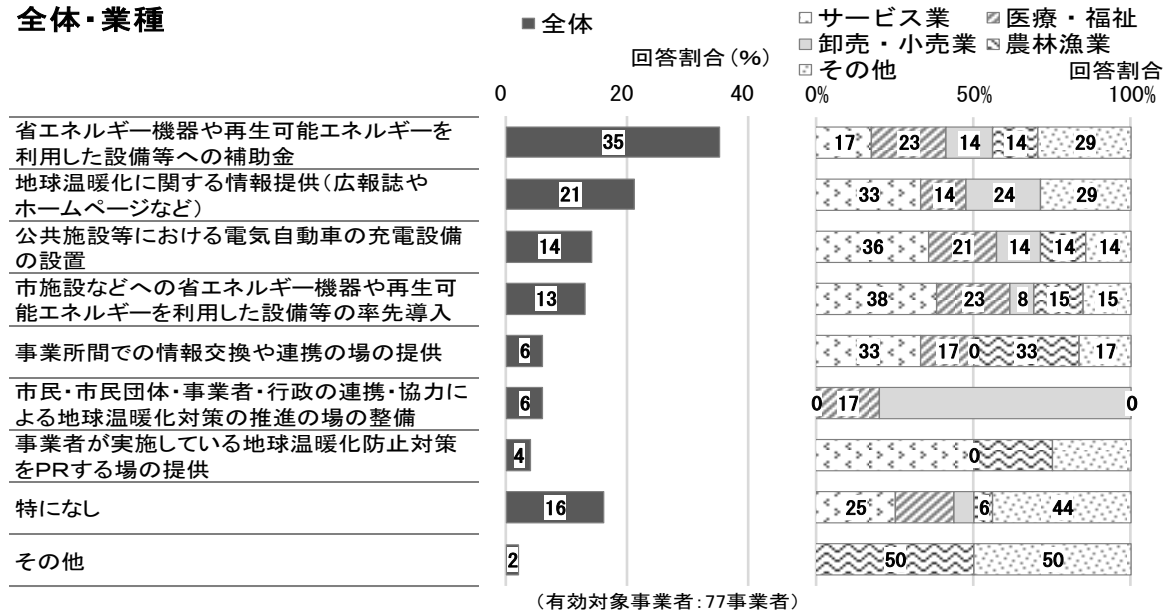
「活用していないが、今後、活用したい」と回答された割合が高かった項目は、「枚方市ホームページ」、「環境イベント」、「事業者向けの説明会や講演会」があった。省エネ対策の講演会等を行うことで、多くの事業者に参加してもらえる可能性がある。これは、枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者についても同様である。そして、省エネ対策の優秀事例等を紹介し、参加者に取り組んでもらえるように働きかけることも有効である。

5.11 今後、枚方市に期待する地球温暖化対策（問18）

【任意事業者】

枚方市に期待する地球温暖化対策としては、「省エネルギー機器や再生可能エネルギーを利用した設備等への補助金」が32%で最も多く、次いで「地球温暖化に関する情報提供（広報誌やホームページなど）」が19%で、16%は「特になし」としていた。

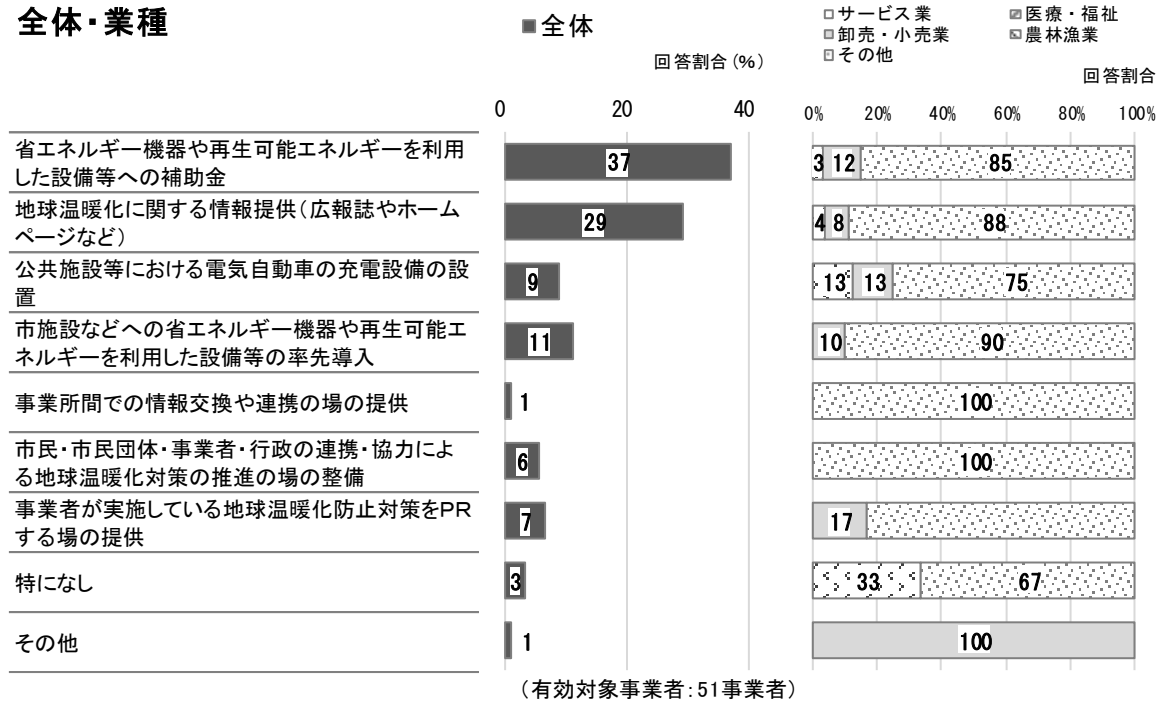
全体・業種



【枚方市地球温暖化対策協議会】

枚方市に期待する地球温暖化対策としては、「省エネルギー機器や再生可能エネルギーを利用した設備等への補助金」が37%で最も多く、次いで「地球温暖化に関する情報提供（広報誌やホームページなど）」が29%となっていた。

### 全体・業種



### 【課題・まとめ】

無作為抽出した事業者及び枚方市地球温暖化対策協議会に参加している事業者の両方で、枚方市に最も期待している対策は、「省エネルギー機器や再生可能エネルギーを利用した設備等への補助金」、次に多い事項は「地球温暖化に関する情報提供（広報誌やホームページなど）」であった。そのため、市または国による補助金事業や、補助金を使った事業事例集等の情報提供を積極的に事業者に広報ひらかた等で発信する必要がある。

### 【問18の自由回答の概要】

太陽光発電システムを導入していない理由について聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

番号	内容
1	ごみ半減がまったく絵に書いたもちである。生ごみの有効利用（堆肥化だけではない）を計ることで日本中のごみは簡単に半分になる。実施して立派にやっている市町村は実在する。枚方市も見学や意見交換ではなく、見本、お手本になる日本一の市にしてほしい。実行あるのみである。

## 【問19の自由回答の概要】

太陽光発電システムを導入していない理由について聞いたところ、以下の意見があった。なお、回答数が少ないため、テキストマイニングは行っていない。

番号	内容
1	ごみ半減がまったく絵に書いたもちである。生ごみの有効利用（堆肥化だけではない）を計ることで日本中のごみは簡単に半分になる。実施して立派にやっている市町村は実在する。枚方市も見学や意見交換ではなく、見本、お手本になる日本一の市にしてほしい。実行あるのみである。